

高崎市文化財調査報告書第385集

石神原遺跡

—石神原地区農業体質強化基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2017

高崎市教育委員会

序 文

高崎市は、関東地方の北西部に位置し、平成の7市町村の大合併により、人口37万人を超える群馬県内最大の人口を擁する中核都市となりました。古来より上信越を結ぶ交通の要衝として栄え、高速道路や新幹線が整備され、全国有数の交通拠点都市でもあります。

本市には文化財が数多くあり、中でも国指定特別史跡である多胡碑、山上碑、金井沢碑の「上野三碑」は、その歴史的価値が認められ、「世界の記憶」の国内候補として申請され、本登録が期待されるところであります。

ここに報告いたします石神原遺跡は、遠く赤城山、榛名山、妙義山の上毛三山を望む、自然豊かな静寂な地にあります。付近には、群馬県指定史跡「入野遺跡」をはじめ、中世の城館跡が数多く分布する地域としても知られています。遺跡からは、縄文時代から奈良時代の集落が発見され、貴重な資料を得ることができました。今回の発掘調査により得られた資料を後世へと伝え、古代史解明と郷土理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、多大なるご理解、ご協力をいただきました地元関係者の皆様、関係各機関の方々に厚く御礼申し上げ、序文といたします。

平成29年3月

高崎市教育委員会
教育長 飯 野 眞 幸

例 言

1. 本書は石神原地区農業体質強化基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
3. 発掘調査の事項は以下のとおりである。

遺跡番号	高崎市遺跡番号661			
地 番	高崎市吉井町石神384番地ほか			
調査体制	教育長	飯野眞幸	教育部長	上原正男
	文化財保護課長	若狭 徹	埋蔵文化財担当係長	角田真也
	埋蔵文化財庶務担当 針井 修(主査) 加藤志津代(主査)			
	埋蔵文化財調査担当 小根澤雪絵(主任学芸員) 田村 孝(嘱託職員)			
調査期間	平成27年2月16日から平成28年3月29日			
調査面積	350㎡			
整理担当者	小根澤雪絵 茂木由行 飯塚光生			
整理期間	平成28年8月1日から平成29年1月31日			
4. 本書の執筆、編集は小根澤が行った。遺物観察表のSI 1 縄文土器については、茂木由行(文化財保護課再任用職員)が執筆を担当した。
5. 本書で使用した遺構写真は小根澤、田村が撮影した。遺物写真は飯塚光生(文化財保護課嘱託員)が撮影した。
6. 遺構測量の基準杭設定は(株)高崎測量に、遺構平面測量図は(株)測研に委託して行った。
7. 発掘調査の資料及び出土品は高崎市教育委員会で保管している。
8. 本書の作成にあたって、石器実測ならびに観察方法を大工原豊氏(鶴見大学・神奈川大学非常勤講師)よりご指導を賜った。発掘調査では、下記の機関ならびに個人より多大なるご協力を頂いた。

高崎市農政部田園整備課 吉井支所建設課 高崎市立入野中学校 吉井町石神区長柴山正一
土地地権者の方々 谷藤保彦氏(群馬県埋文調査事業団) 伊藤順一氏(毛野考古学研究所)
9. 発掘調査および整理作業に従事した者は次のとおりである(順不同・敬称略)。

赤見公一 秋山文男 荒井滋道 小嶋明子 塚越 昇 善如寺陽子 鈴木 実 都丸夏雄 松倉秀樹
宮寺正明 四ッ柳亘 新井智也子 倉持洋子 佐藤久子 田村貴久江 白石政子 原 祐子 原 誠二

凡 例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の1/25,000、高崎市都市計画図1/2500を使用した。
2. 遺構平面図の北方向は座標北を示し、座標は平面直角座標Ⅸ系(世界測地系2011)である。
3. 挿図中で用いる遺構の略称は以下の通りである。SD：溝跡 SK：土坑 SI：堅穴住居跡 P：柱穴
4. 遺構土層堆積の説明に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局(財)日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を参照にした。
5. 掲載した遺物実測図は、土器は1/3を基本とし、鉄製品は1/2で掲載した。石器は石鏃・石匙類の小型品は2/3を基本とし、その他は1/3で掲載した。
6. 石器実測図で打製石斧に表した斜線は、装着痕が観察された範囲を示している。また、凹み部分の破線は、凹→摩耗を意味している。
7. 石器実測図に示した矢印の範囲は調整加工を示し、Pは押圧剥離、Dは直接打撃、Mは縁辺微細剥離による調整を示している。なお、剥離面の打点が明確な場合は、▼により位置を示した。

目次

序文

例言 凡例

第1章	調査に至る経緯と過程	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	1
第2章	遺跡の立地と環境	2
第1節	遺跡の地理的環境	2
第2節	遺跡の歴史的環境	2
第3章	調査の方法	5
第1節	遺跡の調査・記録方法	5
第4章	遺構と遺物	6
第1節	基本土層	6
第2節	竪穴住居(SI)	7
第3節	溝(SD)	11
第4節	土坑(SK)	11
第5節	柱穴(P)	11
第5章	まとめ	23
第1節	調査の成果	23
第2節	SI 1 出土土器について	23
第3節	SI 1 出土石器について	23

遺物観察表

写真図版

抄録 奥付

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	周辺遺跡分布図	3
第3図	基本土層図	5
第4図	遺構全体図	6
第5図	SI 1 遺構図(1)	8
第6図	SI 1 遺構図(2)	9
第7図	SI 2～4 遺構図	10
第8図	SD 1～4・SK 1～3 遺構図	12
第9図	SK 4～9・P 1～4 遺構図	13
第10図	P 5～10遺構図	14
第11図	出土遺物図(1)	15
第12図	出土遺物図(2)	16
第13図	出土遺物図(3)	17
第14図	出土遺物図(4)	18
第15図	出土遺物図(5)	19
第16図	出土遺物図(6)	20
第17図	出土遺物図(7)	21
第18図	出土遺物図(8)	22

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	4
第2表	土坑一覧	14
第3表	柱穴一覧	14
第4表	SI 1 出土石器組成表	24
第5表	器種別重量組成表	25
第6表	石材別重量組成表	25
第7表	出土遺物観察表	26

第1章 調査に至る経緯と過程

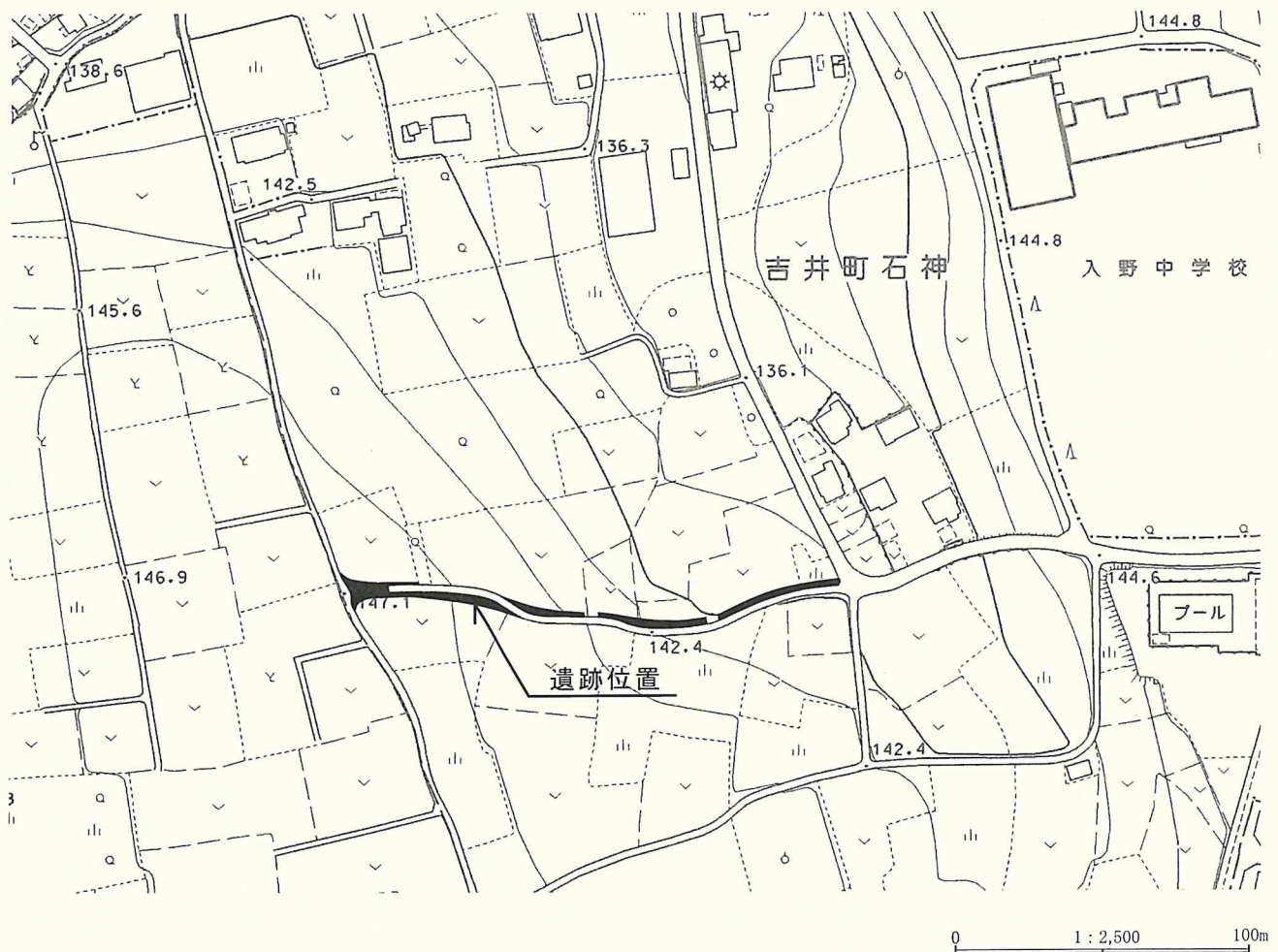
第1節 調査に至る経緯

平成25年9月、高崎市農政部田園整備課より高崎市吉井町石神地区における農道拡幅整備について事業が計画された。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地(吉井町遺跡地図No115)に該当することから、田園整備課より文化財保護課に確認調査の依頼があった。これを受けて文化財保護課は、周辺に所在する群馬県指定史跡入野遺跡をはじめ、周囲に古墳時代後期の集落が広範囲に分布することから、本事業地においても同様の遺構の検出を想定した。この結果を受けて、田園整備課と文化財保護課の間で工事と文化財の遺跡保護の協議が行われたが、工事計画の変更は困難との回答で、本調査の計画が行われた。その後、文化財保護法第94条に基づく通知が提出され、記録保存のための本調査が実施されるに至った。

第2節 調査の経過

以下、調査記録日誌より抜粋した。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 2月16日 調査開始。 | 3月17日 委託による遺構平面測量。 |
| 西側調査区重機による表土掘削。 | 3月28日 住居跡貼り床除去、完掘写真撮影。 |
| 2月26日 住居跡等掘り下げ。遺物上げ。 | 3月29日 重機による埋め戻し完了。調査終了。 |
| 3月3日 西側調査区、全景写真撮影。 | 3月30日 プレハブ等撤去。 |
| 3月4日 東側調査区重機による表土掘削。 | |



第1図 遺跡位置図(『高崎市都市計画基本図』1/2,500を使用)

第2章 調査の立地と環境

第1節 遺跡の地理的環境

石神原遺跡は群馬県高崎市吉井町石神に位置し、地形的には鎬川の右岸上位段丘面、標高139mから147mに立地する。鎬川は下仁田町荒船八風山にその源を発し、藤岡市上落合付近で鮎川と合流する。甘楽町・吉井町に至る広範囲の流域では、特に右岸において上位・下位に分かれる顕著な河岸段丘を形成している。また、この河岸段丘を縦断するように、南方御荷鉾山系に源流をもつ小河川(天引川・大沢川など)が段丘を南北に区切り、いくつもの舌状台地が並ぶ「甘楽の谷」の景観をつくっている。本遺跡地においても、西は矢田川、東は土合川に挟まれた舌状台地上にある。

上位段丘の形成は、洪積世末期(約数万年から十数年前)に遡り、関東ローム層が厚く堆積している。下層の基盤は第三紀に形成された泥岩で、その上層に粘土層が堆積する。上層ロームは集落の形成や作物栽培に適した土壌である。それゆえ上位段丘には、旧石器時代から中世城館跡に至る遺構・遺物が、非常に高い密度で分布する。

第2節 遺跡の歴史的環境

旧石器時代 多比良追部野遺跡(12)において、A T下層のナイフ形石器をはじめとする石器群が出土している。矢田遺跡(3)でも台形様石器などが出土している。

縄文時代 前期では多比良天神原遺跡(10)で有尾・黒浜式期の住居跡、神保植松遺跡(9)で諸磯式期を中心とした住居跡、黒熊遺跡群(15)で諸磯c式期の住居跡が確認されている。中期では矢田遺跡(3)や多比良笠掛遺跡(17)で住居跡が確認されている。晩期では腰巻遺跡(26)で深鉢に入った状態の磨製石斧7点が出土している。

弥生時代 神保植松遺跡など中期の遺跡も丘陵上に点在するが、遺跡が増加するのは後期に入ってからである。周辺では入野遺跡(35)、川内遺跡(5)、黒熊遺跡群などがあり、集落とともに方形周溝墓も多く検出している。

古墳時代 集落は中期のものは非常に少ないが、後期からの開発はめざましく、鎬川上位段丘および下位の微高地の広範囲に継続的な営みを見せる。入野遺跡、黒熊遺跡群、矢田遺跡などがある。中でも入野遺跡は昭和48年に群馬県指定史跡として入野中学校の校庭に包蔵する形で保存されているが、周辺は後期集落が広域で分布すると考えられている。古墳については、周辺では入野村42号墳(24)をはじめ「上毛古墳総覧」によると石神地区に9基の記載がある(町誌の名称は祝神古墳群)。終末期では、高崎市指定史跡多比良諏訪前古墳(20)、同指定多胡薬師塚古墳(6)が知られている。

奈良・平安時代 和銅4年(711)に多胡郡が建郡されたことを記す、国指定特別史跡「多胡碑」がある。多胡郡を成す郷の一つ八田郷は、上位段丘に位置する矢田遺跡の調査で「八田郷」の線刻をもつ石製紡錘車の出土から、該地が八田郷として比定されている。その他にも古墳時代後期の集落遺跡と重なるように、椿谷戸遺跡(4)、多比良遺跡(14)、多比良追部野遺跡、黒熊中西遺跡(13)、黒熊遺跡群、川内遺跡等で広範囲に分布している。また生産遺跡として、南方の山斜面には下五反田窯跡(21)、清竜寺滝の前窯跡(22)、末沢窯跡(23)など、県内最大規模の須恵器・瓦の窯跡群が多く確認されている。官衙寺院遺跡としては、多胡郡正倉跡と目される大型礎石建物跡(30)や、平安期の寺院である黒熊中西遺跡などが確認されている。

中世 古代末期に「多胡庄」「神保庄」の荘園が存在していたことが窺われ、多胡館との関連が注視される。集落として確認されているのは矢田遺跡のみである。城館跡としては、関東管領が平井城に置かれた時期と関連する城館跡として、新堀城跡(19)、多比良中ノ原城跡、天久沢陣城跡(18)などがある。「箕輪軍記」によると、天久沢陣城跡の北側、本遺跡地に当たる矢田千保原の台地上には延徳寺が所在したが、信玄の兵糧調達を断ったことから焼き払われたと伝えられる。



第2図 周辺遺跡分布図（国土地理院 1/25,000 を使用）

第2章 調査の立地と環境

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺 跡 名	概 要	備 考
1	石神原遺跡	縄文～奈良時代の集落	本報告
2	藤ノ木遺跡	古墳～平安時代の集落	『藤ノ木遺跡』1999 吉井町教委
3	矢田遺跡	縄文～平安時代の集落・「矢田郷」紡錘車	『矢田遺跡』1990 群埋文
4	椿谷戸遺跡	縄文～平安時代の集落・中世土坑	『椿谷戸遺跡』1989 吉井町教委
5	川内遺跡	弥生～平安時代の集落・方形周溝墓群	『川内遺跡』1982 吉井町教委
6	多胡薬師塚古墳	市指定史跡 終末期の横穴式石室	『吉井町誌』1974 吉井町誌編さん委員会
7	多胡古墳群	後期群集墳	『東シメ木・多胡松原遺跡』2005 吉井町教委
8	神保古墳群	後期群集墳	『吉井町誌』1974 吉井町誌編さん委員会
9	神保植松遺跡	縄文～平安時代の集落・中世城郭・土坑	『神保植松遺跡』1997 群埋文
10	多比良天神原遺跡	縄文前期住居跡・古墳	『多比良天神原遺跡』2000 吉井町教委
11	多胡蛇黒遺跡	古墳～平安時代の集落	『多胡蛇黒遺跡』1993 群埋文
12	多比良追部野遺跡	A/T下層石器群・古墳～平安時代の集落	『多比良追部野遺跡』1997 群埋文
13	黒熊中西遺跡	平安時代寺院跡・「元慶四年」銘の砥石	『黒熊中西遺跡(1)(2)』1992・1994 群埋文
14	多比良遺跡	縄文～平安時代の集落	『多比良遺跡発掘調査報告書』1992 吉井町教委
15	黒熊遺跡群	縄文～平安時代の集落・土坑・中世井戸	『黒熊遺跡群発掘調査報告書』(1)～(5) 1981～1985 吉井町教委
16	柳田遺跡	古墳～平安時代の集落	『柳田遺跡群発掘調査報告書』1989 吉井町教委
17	多比良笠掛遺跡	縄文～平安時代の集落	『多比良笠掛遺跡調査報告書』2003吉井町教委
18	天久沢陣城跡	永禄年間の城館跡	『中世吉井の城館跡』1991 吉井町教委
19	新堀城跡	平井城の別城 永禄年間の城館跡	『新堀城跡』1992 吉井町教委
20	多比良諏訪前古墳	市指定史跡 終末期の横穴式石室	『吉井町誌』1974 吉井町誌編さん委員会
21	下五反田窯跡	平安期 須恵器・瓦登窯跡	『考古学研究室発掘調査報告書』1984 国士館大学
22	滝の前窯跡	平安期 瓦窯跡 文字瓦多数出土	『群馬文化』1989 群馬県地域文化研究協議会
23	末沢窯跡	平安期 須恵器・瓦登窯跡	『考古学研究室発掘調査報告書』1984 国士館大学
24	入野村42号墳	後期円墳	『上毛古墳総覧』1938 群馬県
25	竹腰遺跡	平安時代の集落	『竹腰遺跡』1990 吉井町教委
26	腰巻遺跡	縄文時代晩期 深鉢に入った磨製石斧7点	『群馬県立博物館紀要』1983 梅沢重昭 飯島義雄
27	下池古墳群	後期群集墳	『吉井町誌』1974 吉井町誌編さん委員会
28	多胡碑	国指定特別史跡 和銅4年(711)	『上野三碑の研究』1980 尾崎喜左雄
29	御門遺跡	古墳・平安時代の集落・土坑	『御門遺跡発掘調査報告書』1994 吉井町教委
30	多胡郡正倉跡	奈良時代礎石建物跡等	平成27年度現地説明会資料
31	高木古墳群	後期群集墳	『吉井町誌』1974 吉井町誌編さん委員会
32	塚原古墳群	後期群集墳	『吉井町誌』1974 吉井町誌編さん委員会
33	入野遺跡	縄文～古墳時代の集落・中世土坑墓	『入野遺跡』1985 吉井町教委
34	入野遺跡Ⅲ	縄文～古墳時代の集落	『入野遺跡』1986 吉井町教委
35	入野遺跡	古墳時代後期土師器研究の学史的遺跡、県指定史跡	『入野遺跡』1962 尾崎喜左雄
36	入野遺跡群馬場遺跡	弥生～古墳時代の集落・平安期掘立柱建物跡	『入野遺跡群馬場遺跡』1994 吉井町教委
37	入野遺跡群清水遺跡	弥生～奈良時代の集落・掘立柱建築跡・土坑	『入野遺跡群清水遺跡』1995 吉井町教委
38	入野遺跡群山本遺跡	弥生～平安時代の集落・土坑	『入野遺跡群山本遺跡』1993 吉井町教委

第3章 調査の方法

第1節 遺跡の調査・記録方法

調査を開始するにあたり、測量基準杭を(株)高崎測量に委託して行った。調査区は東西に約200m、高低差が約10mあるため、東西X軸の数値が対となる基準杭を3組計6点移設した。

発掘調査は、遺構確認となるソフトローム面まで重機による表土除去を行った。遺構の掘り下げについては、人力による掘削作業を行った。SI 1については、当初農道拡幅部分のみの調査であったが、遺物出土量が非常に多く、工事の際に現路面下に切土が生じることから、現道下まで調査を拡張した。

遺構平面実測図は、トータルステーション・オートレベルを使用して、各遺構を1/10・1/20を基本として作成した。全体図については、1/40測量を測研(株)に委託して行った。遺構断面実測図は1/20を基本として作成し、土層堆積の観察にあたった。

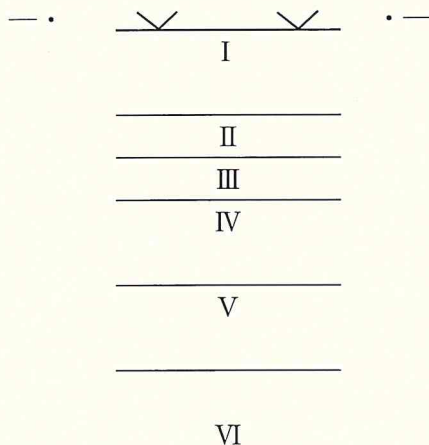
写真撮影は、モノクロ35mm・カラスライド35mm・デジタルカメラの3台にて各調査段階の記録を撮った。

第4章 遺構と遺物

第1節 基本土層

本遺跡は鍋川上位段丘面、西の矢田川と東の土合川に挟まれた舌状台地上にある。基盤層は吉井層と呼ばれる泥岩層から成り、その上部に火山噴出物である関東ローム層(IV層以下)が堆積している。ローム層の上層には、現代に至る黒褐色・暗褐色の表層(I～III層)が堆積している。表層となる暗褐色土は、As-Aが顕著に堆積するI・II層、As-B(砂粒子)が極少量含まれる軟質層III層である。表層下のローム層は、ローム粒子を多く含む漸移層IV層、As-YP(浅間－板鼻黄色軽石)の軽石を少量含む軟質ロームV層、やや硬くしまったAs-SP(浅間－白糸軽石)の黄色軽石を含むハードロームVI層が堆積する。なお、今回は調査の時間上VI層以下を掘り下げなかったが、丘陵の広範囲にはハードロームの下層にAs-BP(浅間－板鼻褐色軽石)が広く堆積し、その下層にはAT層(始良Tn火山灰)が薄く堆積する。

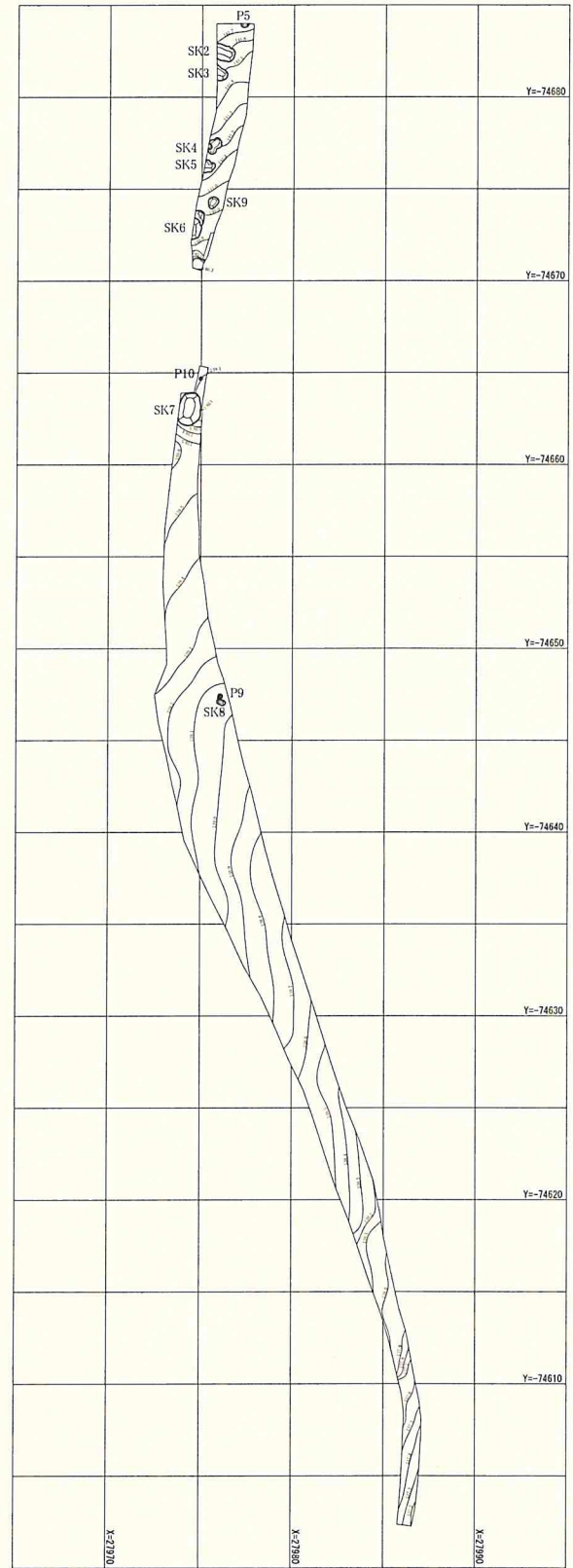
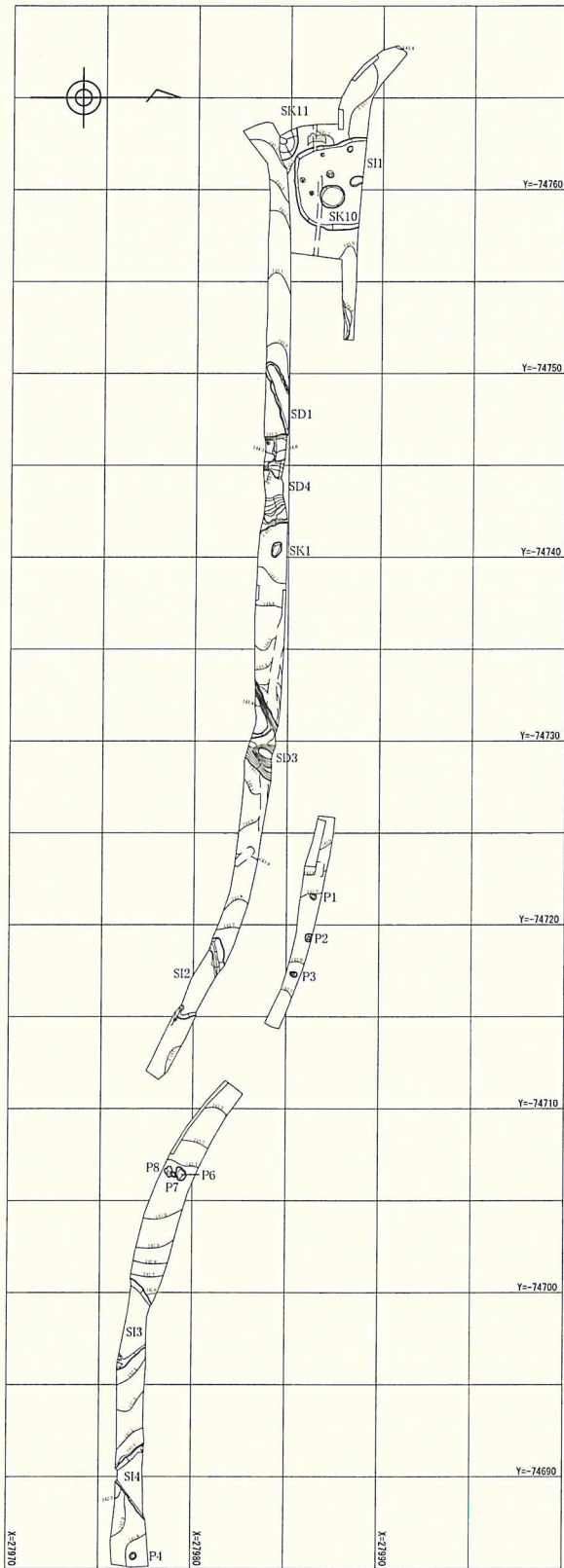
L=146.50m



基本土層

- | | | |
|-----|-------------------|--|
| I | 10YR3/3 (暗褐色) | 現耕作土。As-A 軽石を多く含む。 |
| II | 10YR3/4 (暗褐色) | As-A を多量に含む軟質土。鈍い黄褐色土を含む。 |
| III | 10YR3/2 (暗褐色) | 粒子の細かい暗褐色土主体。上層位に径 1～2 mm の As-B と思われる砂粒子を少量含む。サラサラした軟質土。縄文から平安時代の遺物を包含する。 |
| IV | 10YR3/4 (暗褐色～明褐色) | ローム粒子を多く含む漸移層。 |
| V | 10YR4/4 (褐色) | As-YP の黄色軽石を少量含む軟質なローム層。 |
| VI | 10YR4/2 (灰黄褐色) | やや硬く締まったロームで、As-SP の黄色軽石を含む。 |

第3図 基本土層図 (S=1/20)



0 1 : 400 10m

第4図 遺構全体図

第2節 竪穴式住居(SI)

SI 1 (遺構：第5・6図／遺物：第11～17図)

位置：X=27985・Y=-74760。調査区の中でも丘陵の高台に位置する。**重複：**SK10に切られる。**形態・規模：**長方形。東西4.40m、深さ0.40mを測る。掘り方底面までの深さは0.55m。主軸方向はN-9°-W。**柱穴：**主軸方向の中心あたりで、P5・P3を検出した。壁際を中心に掘り方まで丹念に柱穴を精査したが、壁周溝に沿った布掘りや柱穴などは確認できなかった。**炉跡：**主軸方向の中心、北壁沿いで地床炉を確認した。確認面での規模は東西0.55m、南北0.68mである。**床面：**ほぼ平坦で中央部分を中心に硬化面を広く確認した。掘り方については約15cmで、ロームブロックを主体とし所々黒色土ブロックが混じる硬質層を貼り床としている。掘り方からは、石器(No99・122)が出土している。**遺物：**土器は総計26.5kg出土した。掲載遺物は88点(No1～88)で、関山Ⅱ式・神ノ木式を主体とする。石器石材は、石器・剥片および搬入礫(自然石は除く)と思われる石材の総計は11.48kgである。掲載遺物は35点(No89～123)で、石鏃・石匙・スクレイパー類・打製石斧・石核・敲石・砥石などが出土した。また、住居の南寄り、中層位を中心に焼土とともに5～10cmの被熱の痕跡をもつ礫が約33点集中して出土した。住居廃絶後、埋没過程の窪地に、焚火のような行為があったと考えられる。**所見：**出土した遺物から縄文時代前期前半と考えられる。SK10との関係は、土層断面ではSK10が新しい遺構であるが、出土遺物に大きな時期差を見出せなかった。遺物はSI 1内SK10として同一掲載したが、観察表において出土位置を区別できるようにした。

SI 2 (遺構：第7図／遺物：第18図)

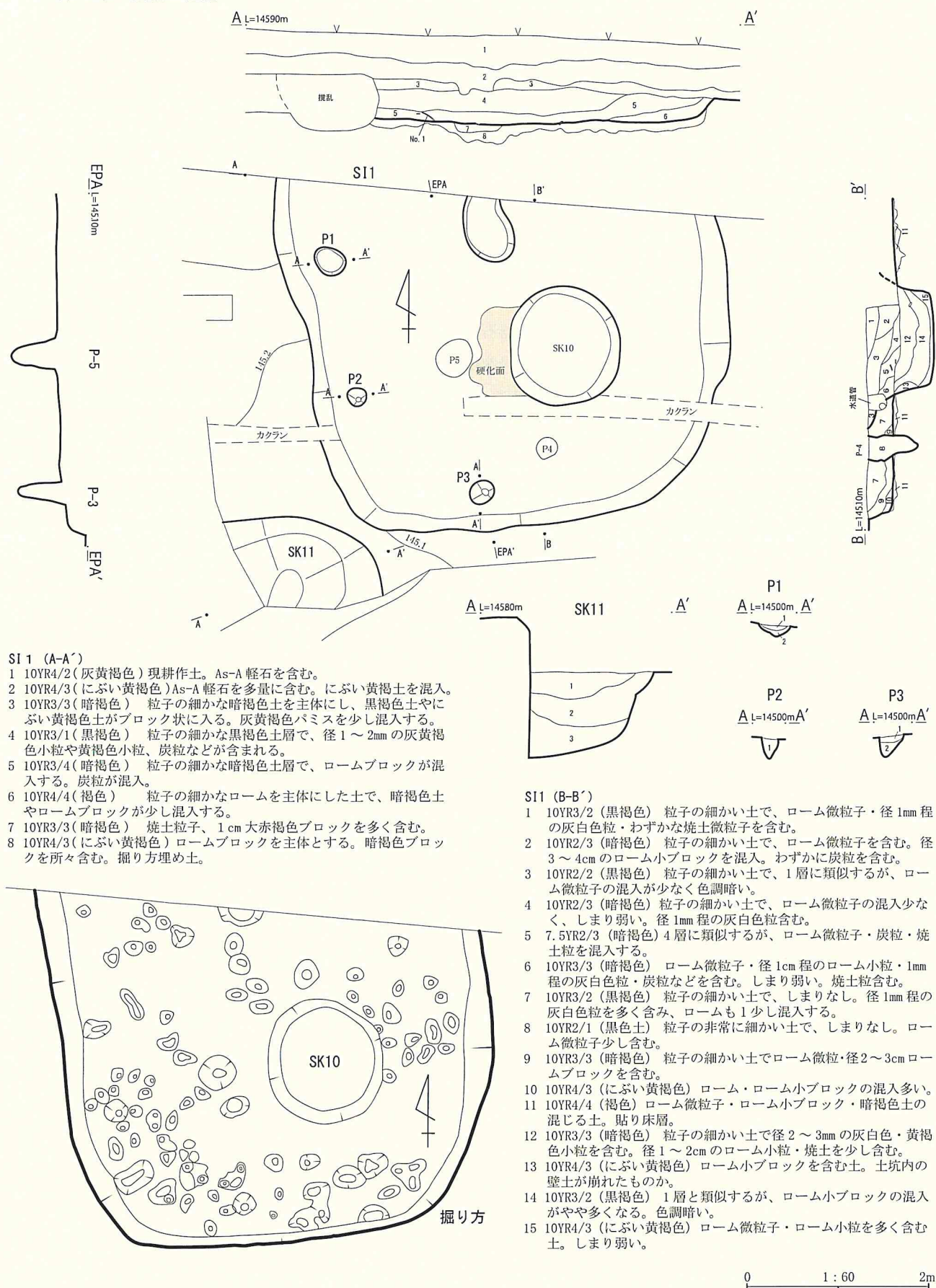
位置：X=27980・Y=-74715。丘陵トップからなだらかに下りる、緩やかな傾斜地に位置する。**重複：**なし。**形態・規模：**確認された壁面の延長から推定すると、ほぼ正方形をなす。延長線から想定される規模は、東西4.0mを測る。深さは0.55mで、掘り方底面までの深さは0.65mを測る。主軸方向はN-81°-E。**柱穴：**確認できなかった。**カマド：**東辺に設置される。北壁沿いでカマド北袖を検出した。**床面：**ほぼ平坦で中央部分を中心に硬化面を確認した。掘り方については約15cmでⅥ層まで掘り込んでいる。ロームブロックを主体とし所々黒色土ブロックが混じる硬質層を貼り床としている。**遺物：**掲載遺物8点(No124～131)。床面直上遺物は、土師器杯No124がカマド北袖脇から出土した。**所見：**出土遺物から、8世紀前半頃と考えられる。

SI 3 (遺構：第7図／遺物：第18図)

位置：X=27975・Y=-74700。丘陵トップからなだらかに下りる、緩やかな傾斜地に位置する。**重複：**なし。**形態・規模：**確認された壁面の延長から推定すると、ほぼ正方形をなすと想定される。規模は確認できない。深さは0.50mで、掘り方底面までの深さは0.70mを測る。主軸方向は、北壁の断面でカマドの焼土を検出しており、およそその設置位置は確認できた。ほぼSI 2と同様な方位である。**柱穴：**確認できなかった。**カマド：**東辺に設置される。北壁沿いでカマドの焼土を検出した。**床面：**ほぼ平坦で中央部分を中心に硬化面を確認した。掘り方については約20cmと深く、Ⅵ層まで掘り込んでいる。ロームブロックを主体とし所々黒色土ブロックが混じる硬質層を貼り床としている。**遺物：**掲載遺物3点(No132～134)。床面直上遺物はなし。**所見：**出土遺物から、7世紀後半頃と考えられる。

SI 4 (遺構：第7図／遺物：第18図)

位置：X=27975・Y=-74690。丘陵トップからなだらかに下りる、緩やかな傾斜地に位置する。**重複：**なし。**形態・規模：**確認された壁面の延長から推定すると、ほぼ正方形をなすと想定される。規模は確認できない。深さは0.43mで、掘り方底面までの深さは0.55mを測る。主軸方向は不明である。**柱穴：**確認できなかった。



第5図 SI1 遺構図(1)

P1

- 1 10YR3/3 (暗褐色) ローム微粒子・YP・暗褐色の混じる土。
- 2 10YR4/3 (にぶい黄褐色) ローム・YP を主体にし、暗褐色土が少し混入する。

P2

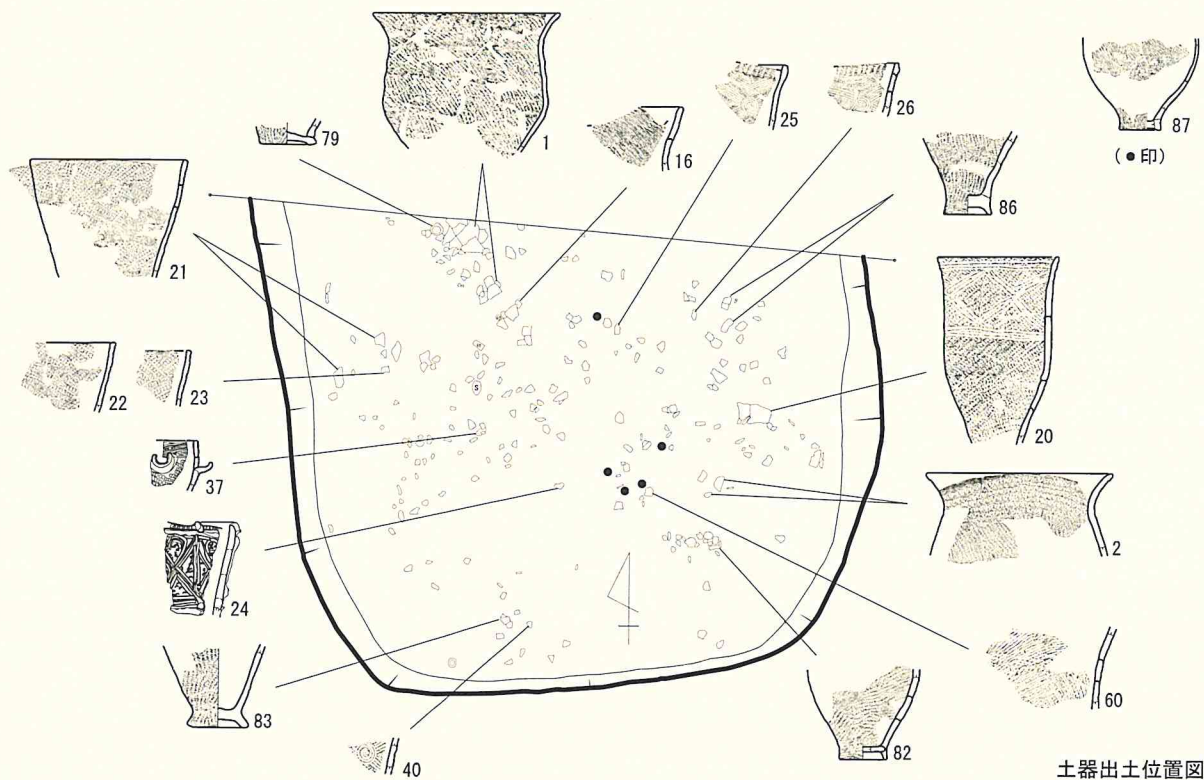
- 1 10YR3/2 (黒褐色) 黒褐色土を主体にローム微粒子・ローム小粒を含む。

P3

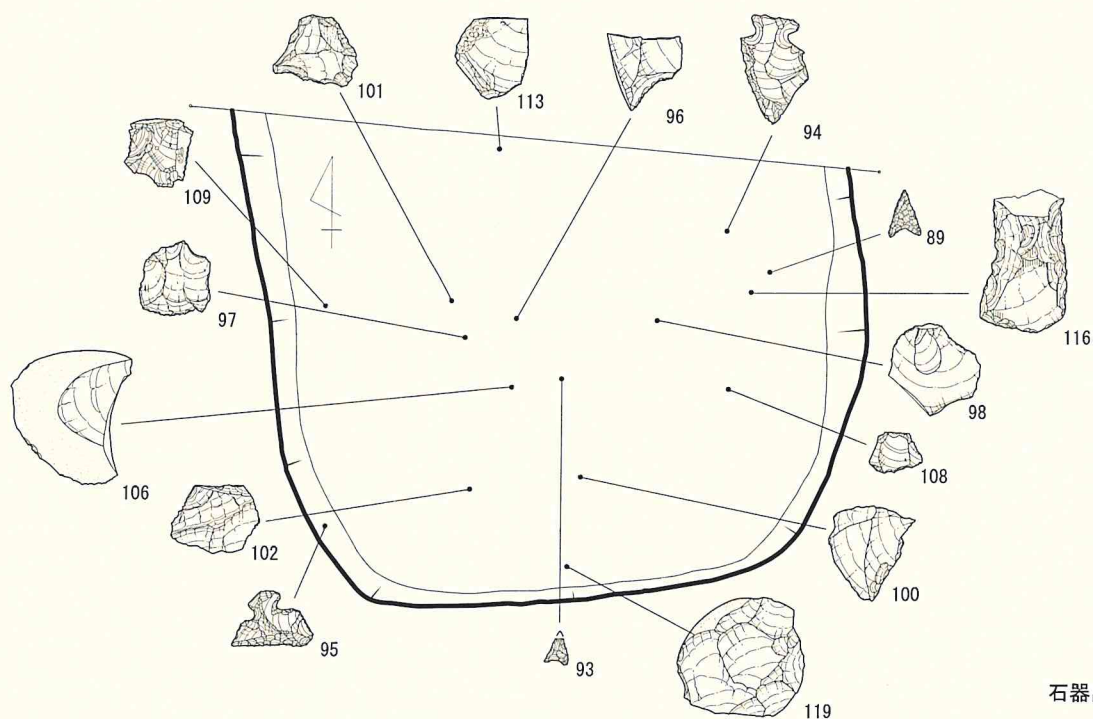
- 1 10YR3/2 (黒褐色) P-2 の 1 層と同じ。
- 2 10YR4/3 (にぶい黄褐色) P-1 の 2 層と同じ。

SK11

- 1 10YR3/2 (黒褐色) 粒子の細かい土で、しまりあり。径 1～2cm のローム小粒が少し混入する。径 1～2mm の灰白色・黄褐色小粒を 4 層より多く含む。
- 2 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 暗褐色土に径 3～4cm のロームブロック・YP、ローム微粒子が混入。
- 3 10YR4/4 (褐色) ローム微粒子・YP・暗褐色土が入り混じる層。しまりなし。やや粘性をもつ。



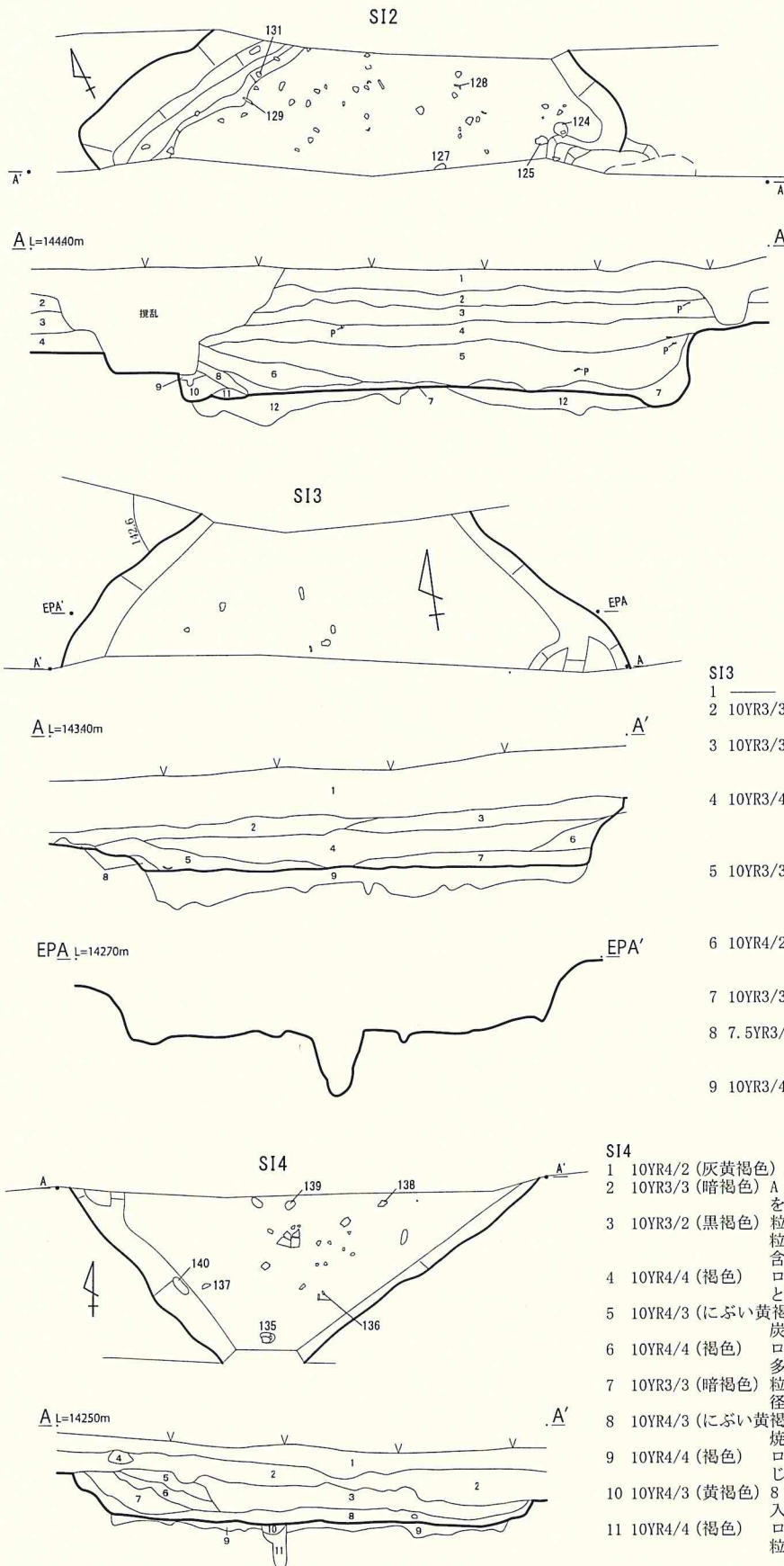
土器出土位置図



石器出土位置図

第 6 図 SI1 遺構図 (2)

第4章 遺構と遺物



SI2

- 1 10YR4/2 (灰黄褐色) 現耕作土。As-A 軽石を多量に含む。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) 粒子の細かい土で、にぶい黄褐色土小ブロックを混入する。As-A 軽石を含む。
- 3 10YR3/2 (黒褐色) 粒子の細かい土で、灰黄褐色土小ブロックを含む。As-A 軽石は混入しない。
- 4 10YR2/2 (黒褐色) 粒子の細かい土で、径 1～2mm の褐色・灰白色小粒を含む。
- 5 10YR3/2 (黒褐色) 4 層と同様だがローム微粒子を 4 層よりも多く含み、色調がやや明るい。
- 6 10YR2/2 (黒褐色) 粒子の細かい土で、炭・焼土の微粒子を含む。
- 7 10YR3/3 (暗褐色) 粒子の細かい土で、ローム微粒子・径 1～2cm のローム小ブロックが混入。炭・焼土微粒子も少し含む。
- 8 10YR5/3 (にぶい黄褐色) ロームと暗褐色土が混じる土で、少量の炭粒・焼土粒を含む。
- 9 10YR5/4 (にぶい黄褐色) ロームが焼けて焼土化した層。カマド構築土。
- 10 10YR5/4 (にぶい黄褐色) ローム・YP の混じる土で焼土粒・炭粒をわずかに含む。カマド構築土。
- 11 10YR4/3 (にぶい黄褐色) ロームと暗褐色土が混じる土で、8 層よりロームの混入量少ない。焼土粒・炭粒を含む。カマド構築土。
- 12 10YR3/3 (暗褐色) ロームとロームブロック、黒褐色土の混じる土で、炭粒が混入する。貼り床面。

SI3

- 1 現路面下。As-A 軽純層。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) 黒褐色粒子主体。ローム粒子やや少ない。粘質やや強め。やや硬質土。
- 3 10YR3/3 (暗褐色) 2 層には含まれない。暗褐色ロームブロック 1cm 大をやや多く含む。粘質やや強め。やや硬質土。
- 4 10YR3/4 (暗褐色) 黒褐色粒子主体。ローム粒子 2.3 層より多く含みやや明るい。1cm 大褐色ロームブロック所々含む。粘質やや強め、やや硬質土。
- 5 10YR3/3 (にぶい黄褐色) ローム粒子多量。2～5cm 大やや明るいロームブロック多く含む。やや軟質。粘質やや強め。炭化粒子、焼土粒子を含む。
- 6 10YR4/2 (灰黄褐色) 4 層よりロームブロック 0.5～1cm 大きく含み明るい。4 層より軟質。粘り少ない。
- 7 10YR3/3 (にぶい黄褐色) 5 層に似る。黄褐色ロームブロック 5cm 多く含む。
- 8 7.5YR3/3 (暗褐色) カマド焼土粒子。0.5cm 大ブロック多く含む。焼土でやや赤味おびる。粘質強い。やや硬質。
- 9 10YR3/4 (暗褐色) 暗褐色土を主体に、径 2～10cm 程のロームブロックを含む土。

SI4

- 1 10YR4/2 (灰黄褐色) 現耕作土。A 軽石を多量に含む。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) A 軽石を多量に含む土で、灰黄褐色土ブロックや炭を混入する。
- 3 10YR3/2 (黒褐色) 粒子の細かい黒褐色土を主体にした土で、ローム微粒子、径 1～2mm の灰白色パミスや黄褐色パミスを含む。
- 4 10YR4/4 (褐色) ロームと暗褐色土の混じる土。焼土粒も含む。6 層と類似する。
- 5 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 粒子の細かい土で、ローム微粒子、焼土粒・炭粒を含む。
- 6 10YR4/4 (褐色) ローム微粒子・ロームブロック・焼土粒を 5 層より多く含む。
- 7 10YR3/3 (暗褐色) 粒子の細かい土で、ローム微粒子を多く含む。炭粒・径 5～10mm のローム小粒少し含む。
- 8 10YR4/3 (にぶい黄褐色) ローム微粒子・ロームブロックを含む。炭粒・焼土粒を少し混じる。
- 9 10YR4/4 (褐色) ロームを主体にした土で暗褐色土がブロック状に混じる。
- 10 10YR4/3 (黄褐色) 8 層に類似するが、ローム微粒子・小ブロックの混入多い。炭粒・焼土粒少し含む。
- 11 10YR4/4 (褐色) ロームを主体にした土で暗褐色土が少し混じる。炭粒・焼土粒少し含む。

0 1 : 60 2m

第7図 SI2～4遺構図

カマド:確認できなかった。**床面**:ほぼ平坦で中央部分を中心に硬化面を確認した。掘り方は約10cmで、ロームブロックを主体とし所々黒色土ブロックが混じる硬質層を貼り床としている。**遺物**:掲載遺物6点(No.135~140)。床面直上遺物はなかった。**所見**:出土遺物から、6世紀前半頃と考えられる。

第3節 溝(SD)

SD 1 (遺構:第8図/遺物:なし)

位置:X=27985・Y=-74750。丘陵のトップ、平坦面に位置する。**重複**:SD 4とわずかに重複するが、土層断面位置にかく乱が生じており、切り合いは確認できなかった。**確認規模**:確認された走長4.1m、幅0.75~0.85m、深さ0.28mを測る。**走行方位**:直線個所ではN-72°-E。**遺物**:覆土中から土師器片が出土した。**所見**:遺物が少なく構築時期は判断できなかった。

SD 2 欠番

SD 3 (遺構:第8図/遺物:第18図)

位置:X=27985・Y=-74730。丘陵のトップ、平坦面に位置する。**重複**:なし。**確認規模**:確認された溝幅は北壁で3.2m、南壁で約4mを測る。確認面からの深さは最深で1.0mを測る。**走行方位**:確認できた直線個所が少なく方位は不明であるが、おおよそ南西から北東方向へ走行する。**遺物**:掲載遺物1点(No.141)。覆土中層位から出土した。**所見**:遺物が少なく構築時期は判断できなかった。なお、類似する覆土および遺構形態からSD 4と同一遺構(空堀状遺構)になる可能性もある。

SD 4 (遺構:第8図/遺物:なし)

位置:X=27985・Y=-74745。丘陵のトップ、平坦面に位置する。**重複**:なし。**確認規模**:確認された溝幅は北壁で4.8m、南壁で5.1mを測る。確認面からの深さは最深で1.1mを測る。**走行方位**:確認できた直線個所が少なく方位は不明であるが、おおよそ南東から北西方向へ走行する。**遺物**:覆土中より縄文土器(羽状縄文)の破片、黒曜石剥片が出土した。**所見**:遺物が少なく構築時期は判断できなかった。なお、類似する覆土および遺構形態からSD 3と同一遺構(空堀状遺構)になる可能性もある。

第4節 土坑(SK)

SK 1~11(遺構:第8・9図/遺物:なし/一覧表:第2表)

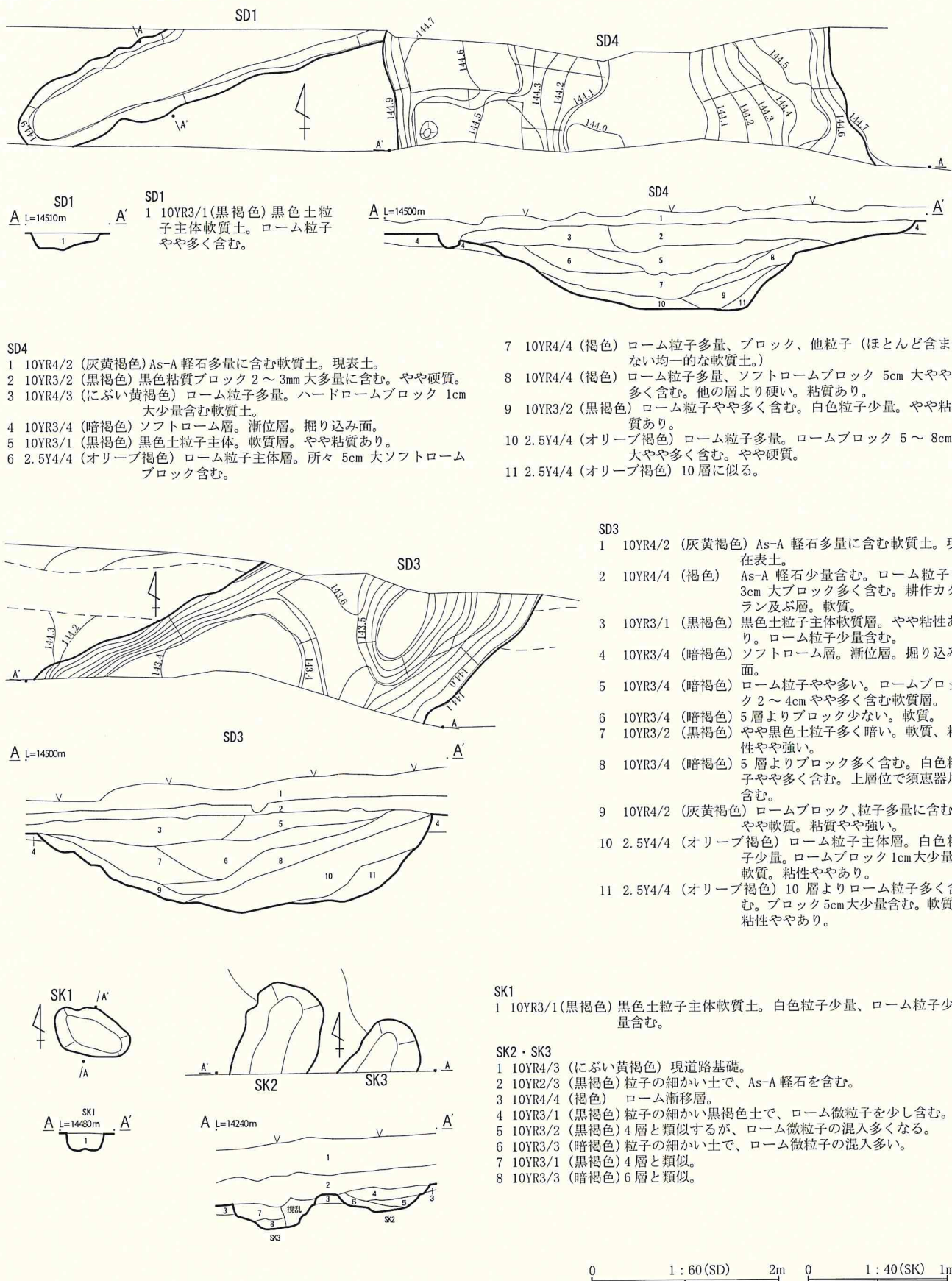
遺構面のほぼ全域に散在し、11基検出した。各土坑の一覧は第2表にまとめた。SK 7は、丘陵からなだらかに下る谷地形の窪地に位置し、比較的大型の土坑である。出土遺物は無く時期の判断は難しいが、陥穴の可能性がある。

第5節 柱穴(Pit)

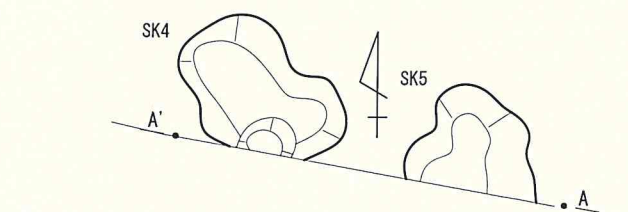
P 1~10(遺構:第9・10図/遺物:なし/一覧表:第3表)

遺構面のほぼ全域に散在し、10基検出した。各柱穴の一覧は第3表にまとめた。多くは伴出遺物がなく、性格・時期など判断できない。

第4章 遺構と遺物

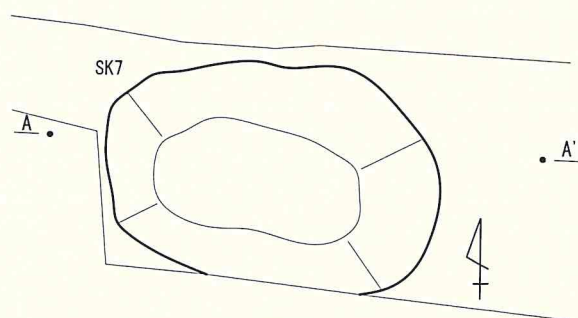
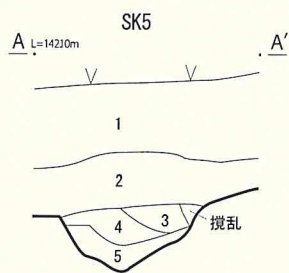


第8図 SD1~4・SK1~3 遺構図

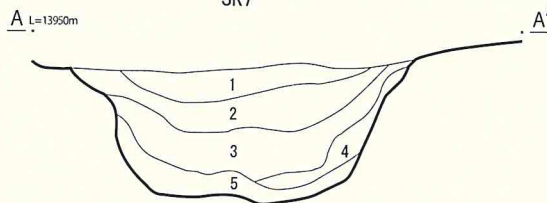


SK5

- 1 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 現道路基礎。
- 2 10YR2/3 (黒褐色) 粒子の細かい土で、As-A 軽石を含む。
- 3 10YR3/1 (黒褐色) 粒子の細かい土で、径 1 ~ 2mm の灰白色・黄褐色パミスを含む。
- 4 10YR3/2 (黒褐色) 粒子の細かい黒褐色土で、ローム微粒子を少し含む。
- 5 10YR3/3 (暗褐色) 4 層と類似するが、ローム微粒子の混入多くなる。

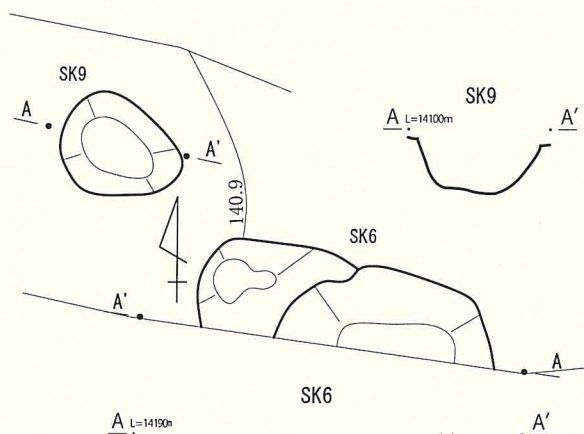
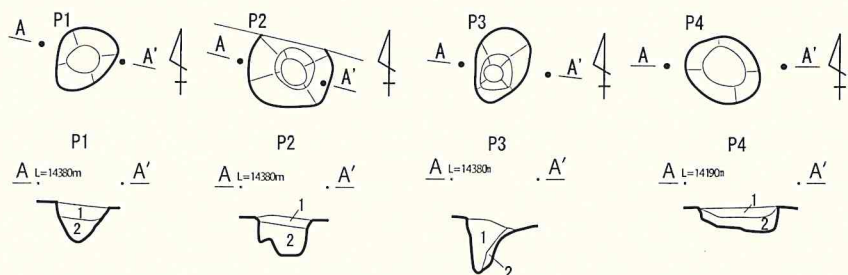


SK7

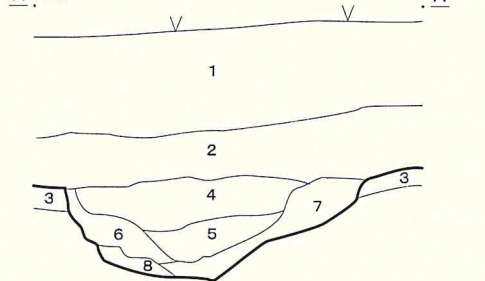


SK7

- 1 10YR2/1 (黒色) 粒子非常に細かい土で、比較的よくしまる。径 2 ~ 3mm の灰褐色パミスや黄褐色パミスを含む。やや腐食質。
- 2 10YR2/2 (黒褐色) 1 層と同様に粒子が非常に細かい土でよくしまるが、灰褐色や黄褐色パミスの混入が多くなる。YP 粒も少し含む。
- 3 10YR2/2 (黒褐色) 2 層より灰褐色や黄褐色パミス・YP 粒の混入が多くなる。ローム微粒子・ローム小粒も混入するようになる。
- 4 10YR3/1 (黒褐色) 粒子が非常に細かいのは同じだが、ローム微粒子・YP 粒・ローム小粒の混入ふえる。
- 5 10YR3/3 (暗褐色) 粒子非常に細かくやや粘性をもつ。ローム微粒子・YP 粒・ローム小粒の混入最も多い。

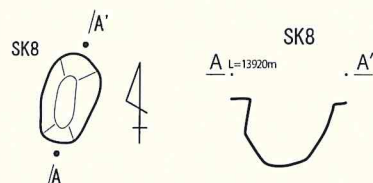


SK6



SK6

- 1 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 現道路基礎。
- 2 10YR2/3 (黒褐色) 粒子の細かい土で、As-A 軽石を含む。
- 3 10YR4/4 (褐色) ローム漸移層。
- 4 10YR3/1 (黒褐色) 粒子の細かい土で、径 1 ~ 2mm の灰白色・黄褐色パミスを含む。径 1cm 前後のローム小粒わずかに混入。
- 5 10YR2/1 (黒色) 4 層と類似するがパミスの混入。ローム微粒子の混入少ない。
- 6 10YR2/2 (暗褐色) 粒子の細かい黒褐色土で、ローム微粒子がやや多いため色調少し明るい。
- 7 10YR2/3 (黒褐色) 粒子の細かい土で、ローム微粒子の混入多く、ロームブロックも少し含む。
- 8 10YR3/3 (暗褐色) ローム微粒子の混入多い土。灰白色・黄褐色パミス・YP を含む。



P1

- 1 10YR3/2 (黒褐色) 黒色粒子主体。ローム粒子少量含む軟質土。
- 2 10YR3/4 (暗褐色) ローム粒子多量に含む軟質土。粘性ややあり。

P2

- 1 10YR3/2 (黒褐色) 黒色粒子主体。ローム粒子少量含む軟質土。
- 2 10YR3/3 (暗褐色) ローム粒子やや多く含む軟質土。粘性ややあり。

P3

- 1 10YR3/2 (黒褐色) P-1-1 層に似る。P-2-1 層に似る。
- 2 10YR3/4 (暗褐色) ローム粒子多量。ロームブロックやや多く含む。

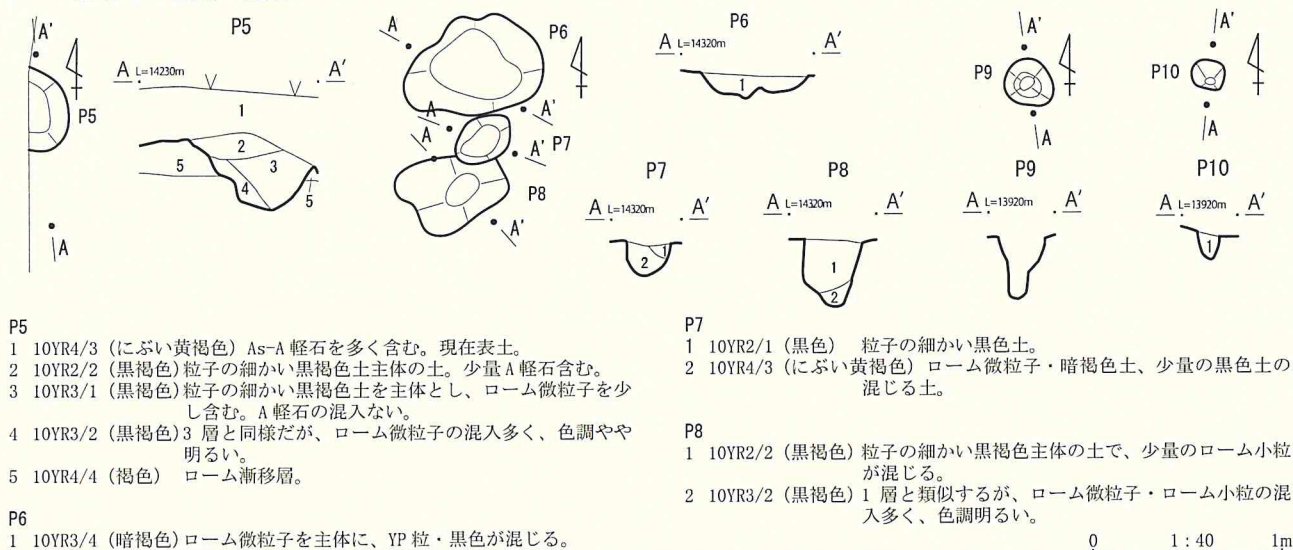
P4

- 1 10YR3/1 (黒褐色) 粒子の細かい黒褐色土を主体とし、ローム微粒子を少し含む。A 軽石の混入ない。
- 2 10YR3/2 (黒褐色) 3 層と同様だが、ローム微粒子の混入多く、色調やや明るい。

0 1 : 40 1m

第 9 図 SK4 ~ 9・P1 ~ 4 遺構図

第4章 遺構と遺物



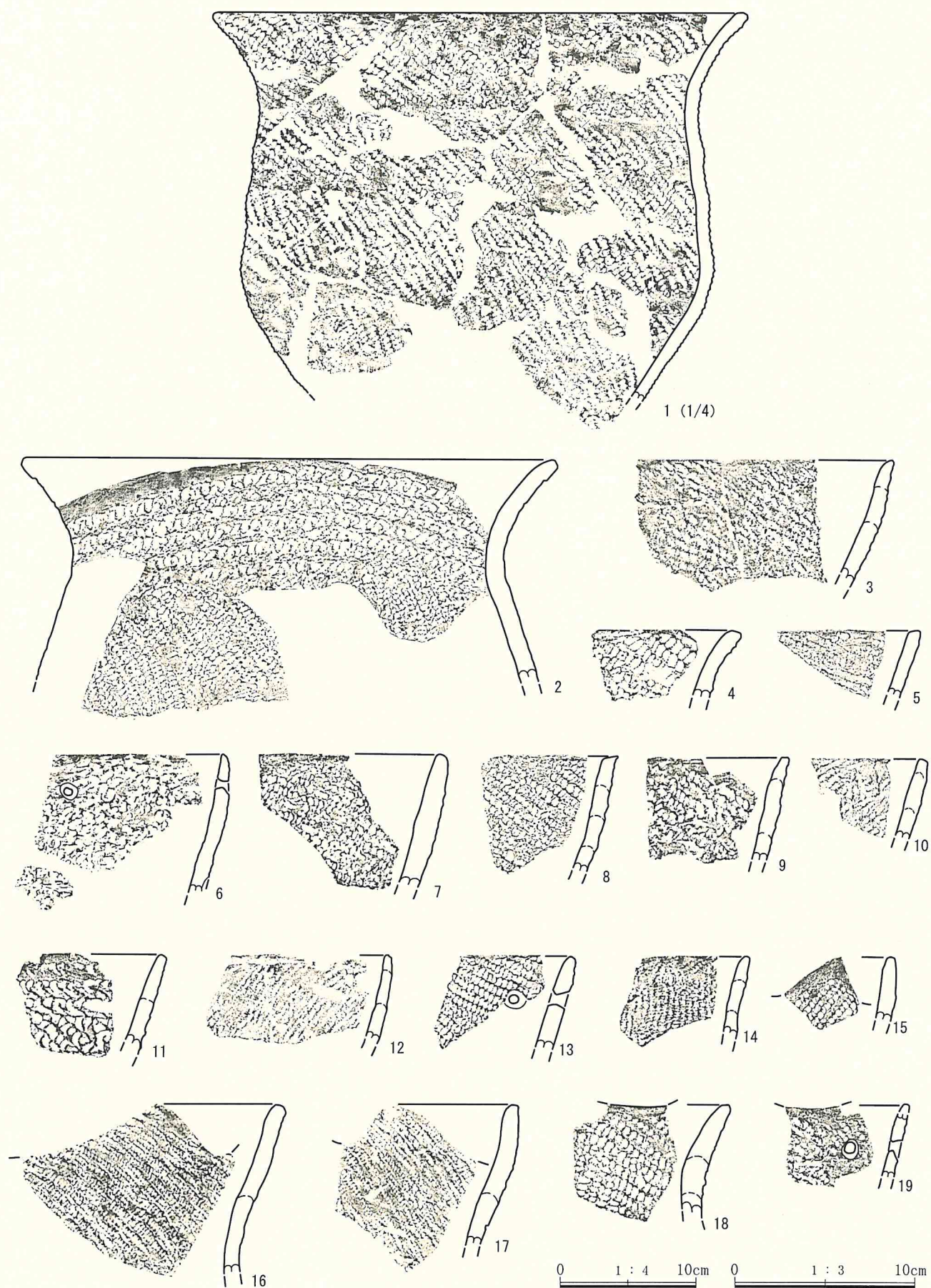
第10図 P5～10 遺構図

第2表 土坑一覧

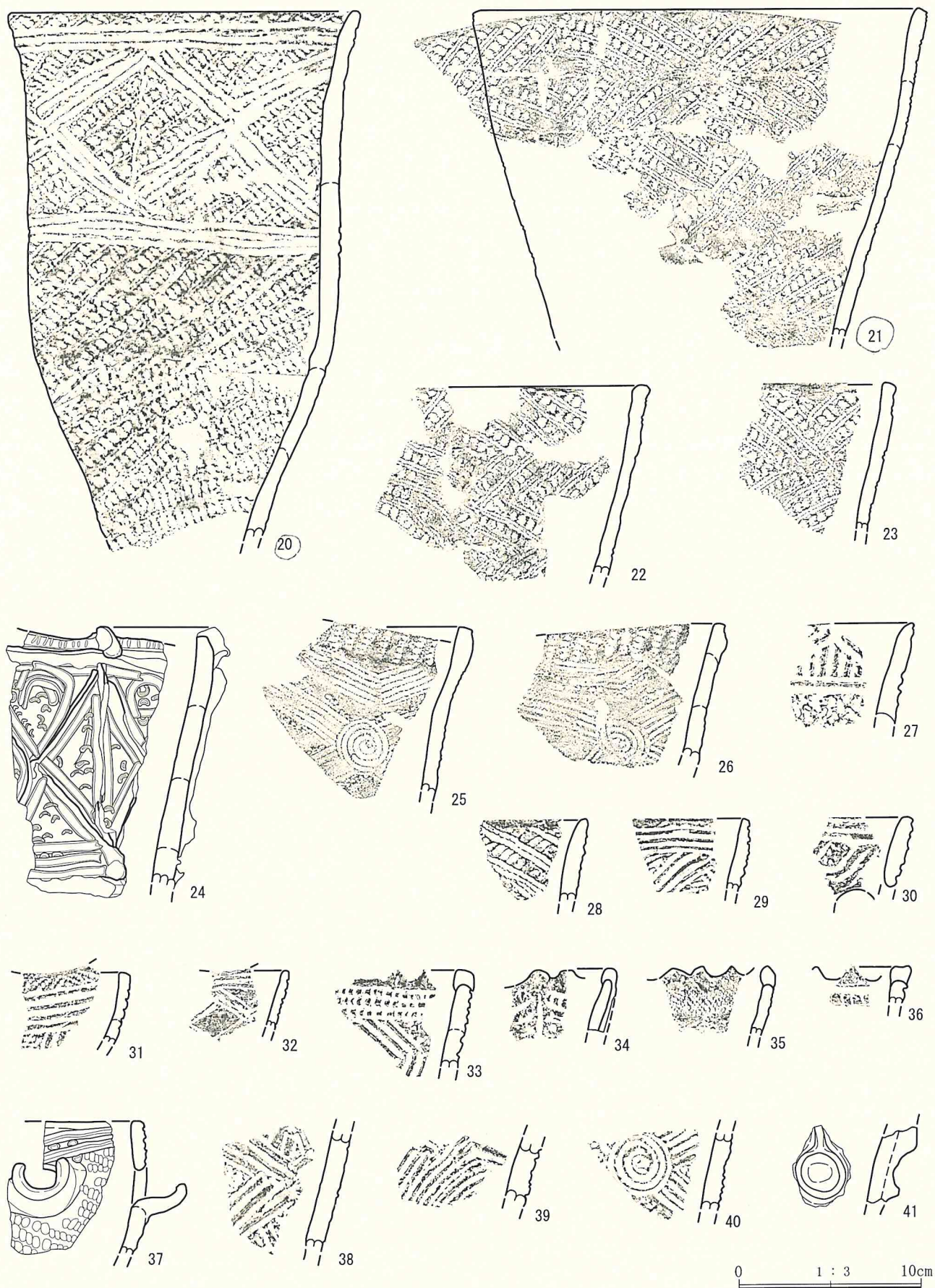
番号	形状		確認規模(cm)			出土遺物	時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
1	楕円形	半球形	88	48	38	なし	—
2	楕円形	半球形	(100)	82	27	なし	—
3	楕円形	半球形	(60)	68	28	土師器破片、石器剥片	—
4	不整円形	半球形	91	55	30	なし	—
5	不整円形	半球形	(55)	70	33	なし	—
6	不整円形	有段箱形	160	(50)	55	なし	—
7	楕円形	半球形	182	(115)	75	なし	—
8	楕円形	半球形	46	27	34	土師器破片	—
9	円形	半球形	66	54	26	なし	—
10	円形	箱型	132	120	42	縄文土器・石器	SI 1 を切る 縄文前期か
11	円形	筒型	(56)	(40)	94	なし	—

第3表 柱穴一覧

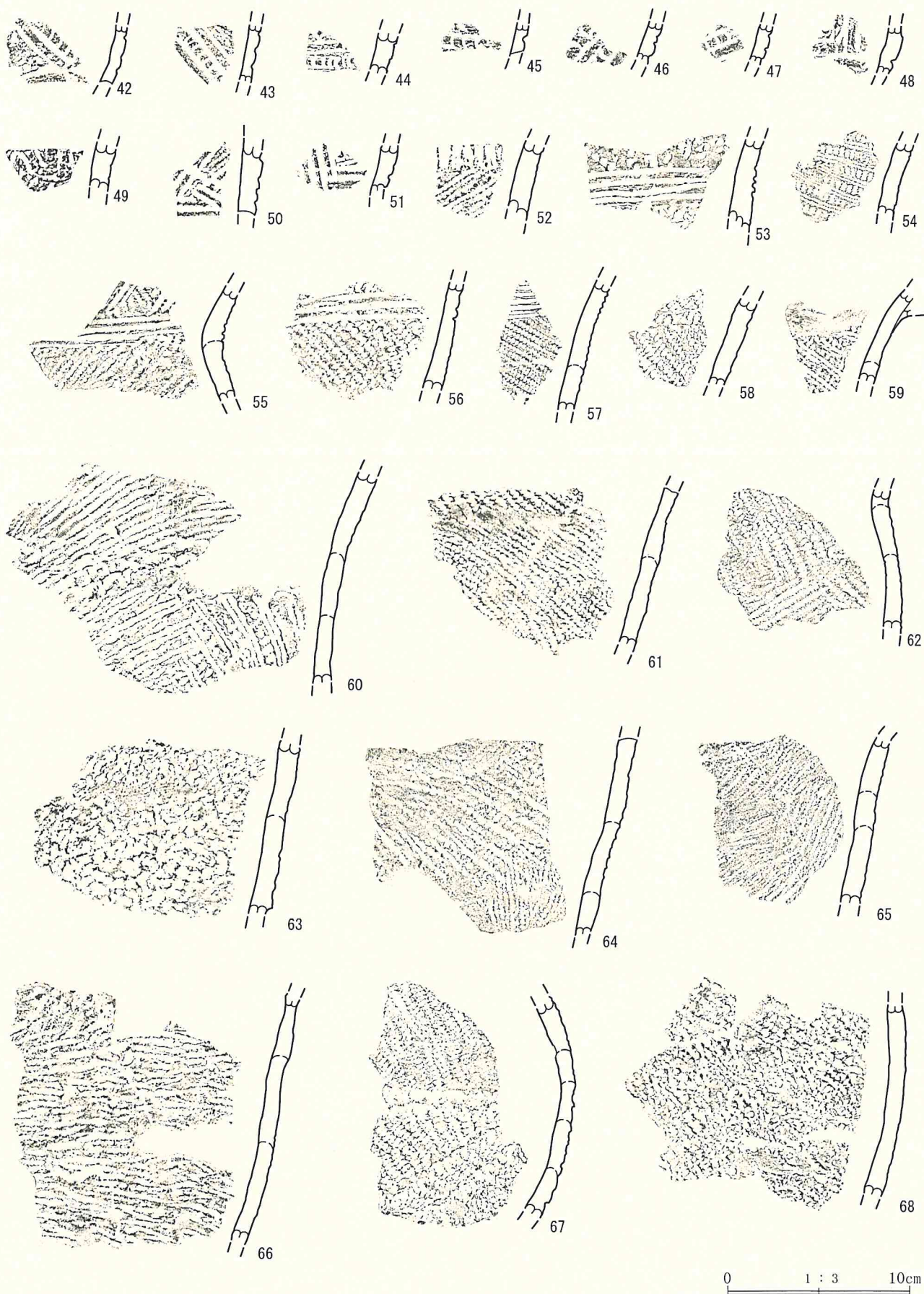
番号	形状		確認規模(cm)			出土遺物	時期・切り合い
	平面	断面	長軸	短軸	深さ		
1	円形	半球	38	28	19	なし	—
2	円形	半球	45	(34)	20	なし	—
3	円形	筒型	40	23	29	土師器破片	—
4	円形	箱型	42	35	13	なし	—
5	円形	有段	43	(20)	37	なし	—
6	楕円形	皿状	76	50	13	なし	—
7	円形	半球	33	24	17	なし	—
8	長方形	筒型	60	33	35	土師器破片	—
9	円形	筒型	27	24	33	なし	—
10	円形	筒型	40	23	29	土師器破片	—



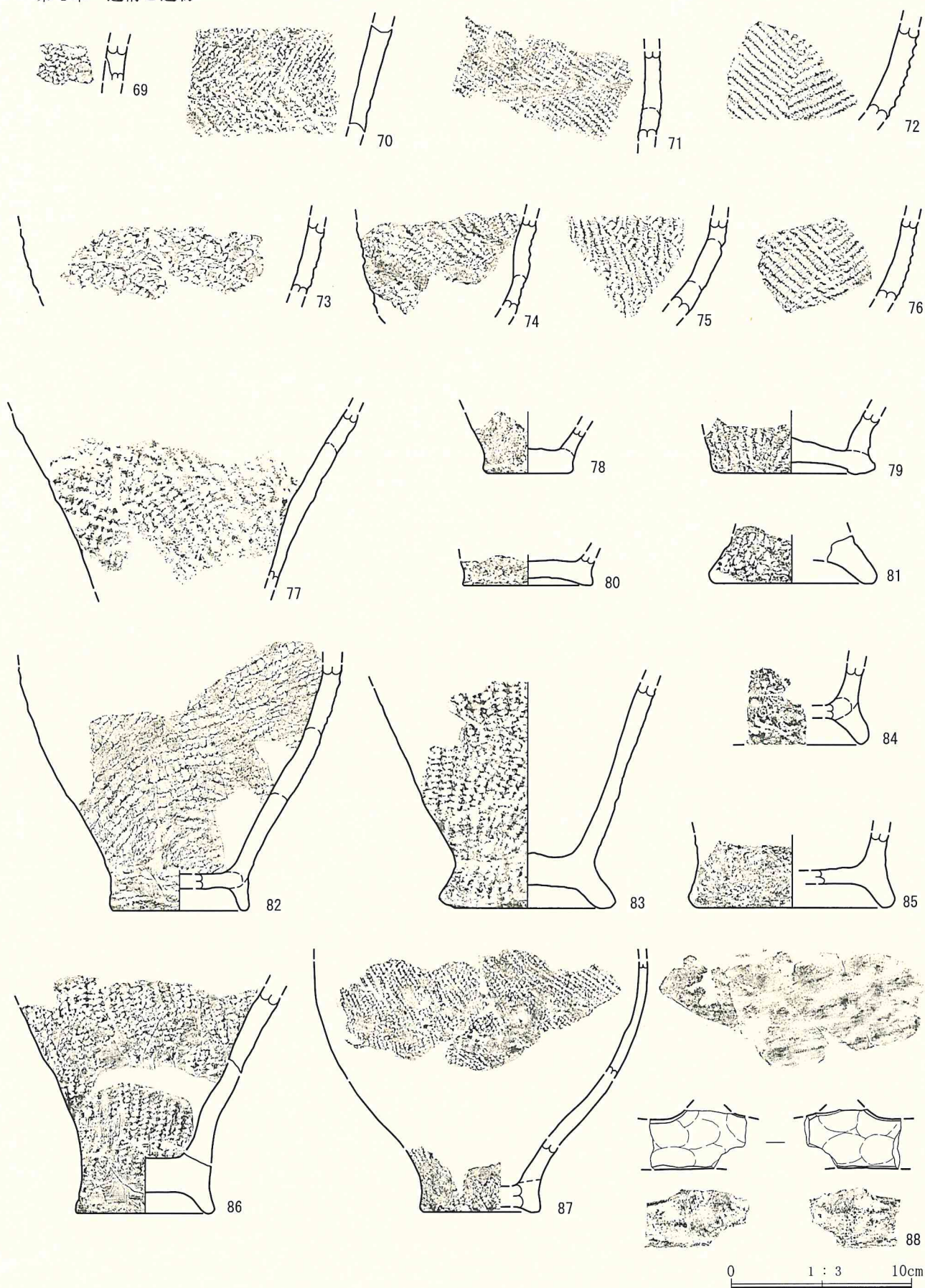
第11图 出土遺物図 (1)



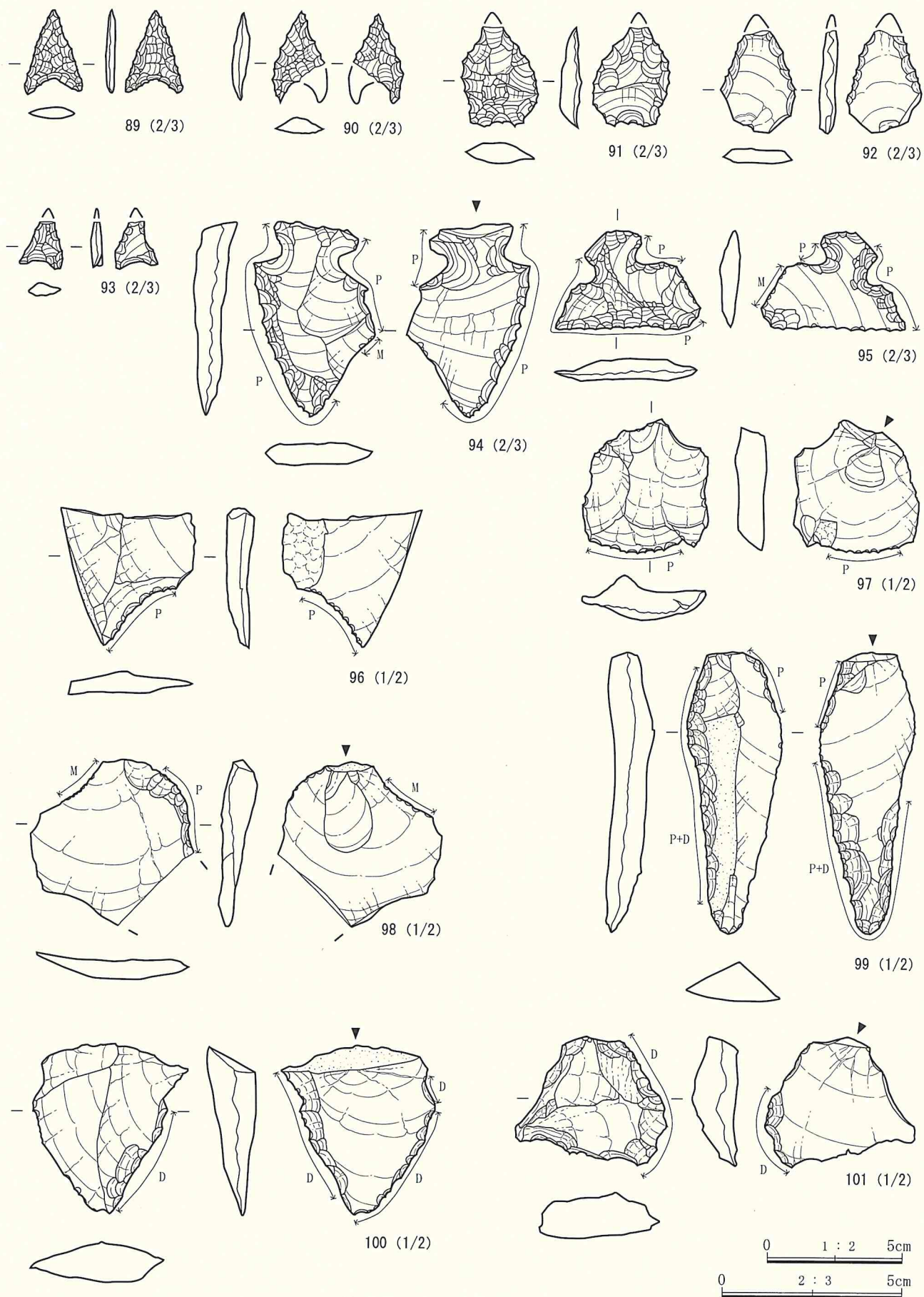
第12図 出土遺物図(2)



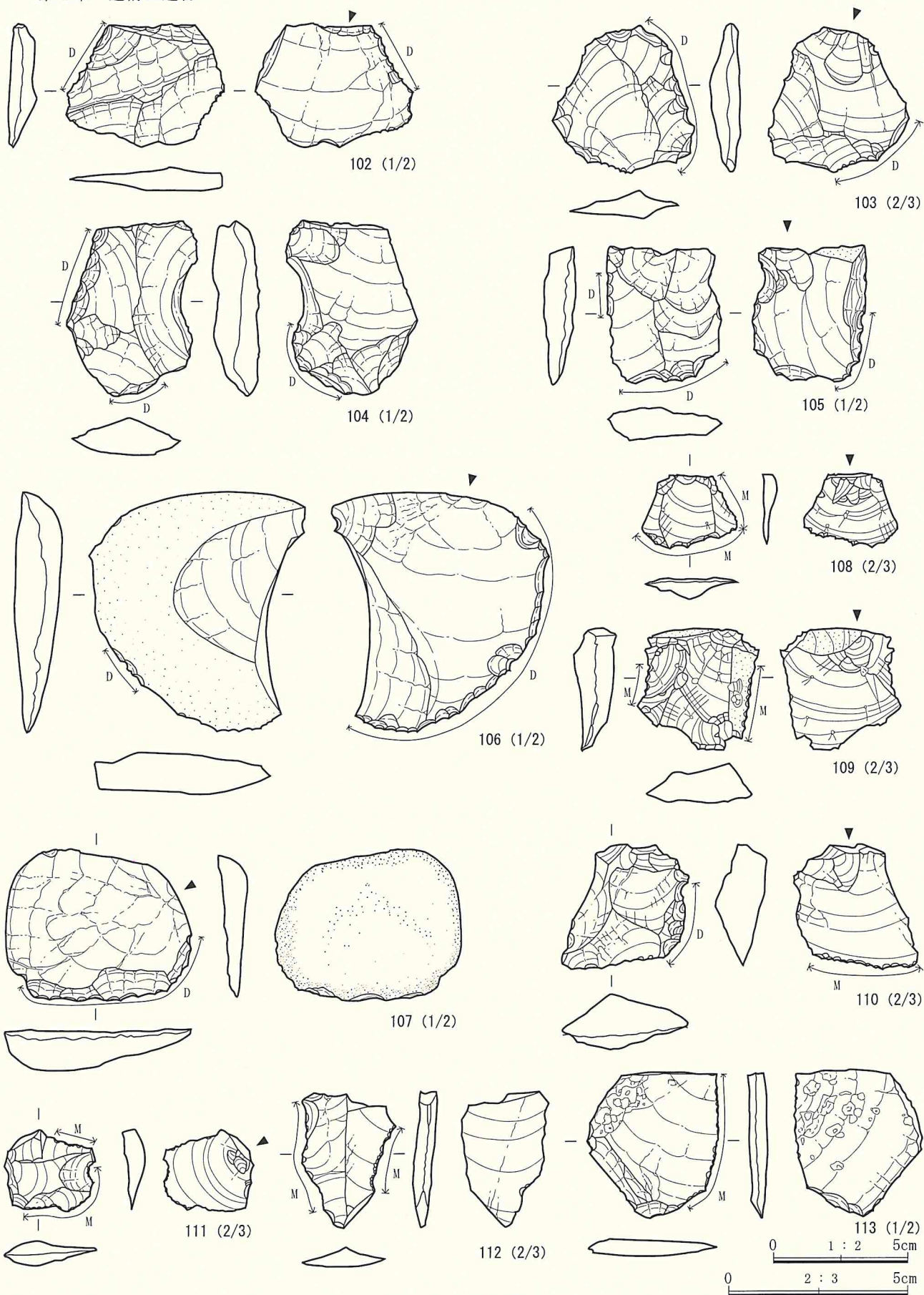
第13图 出土遺物图 (3)



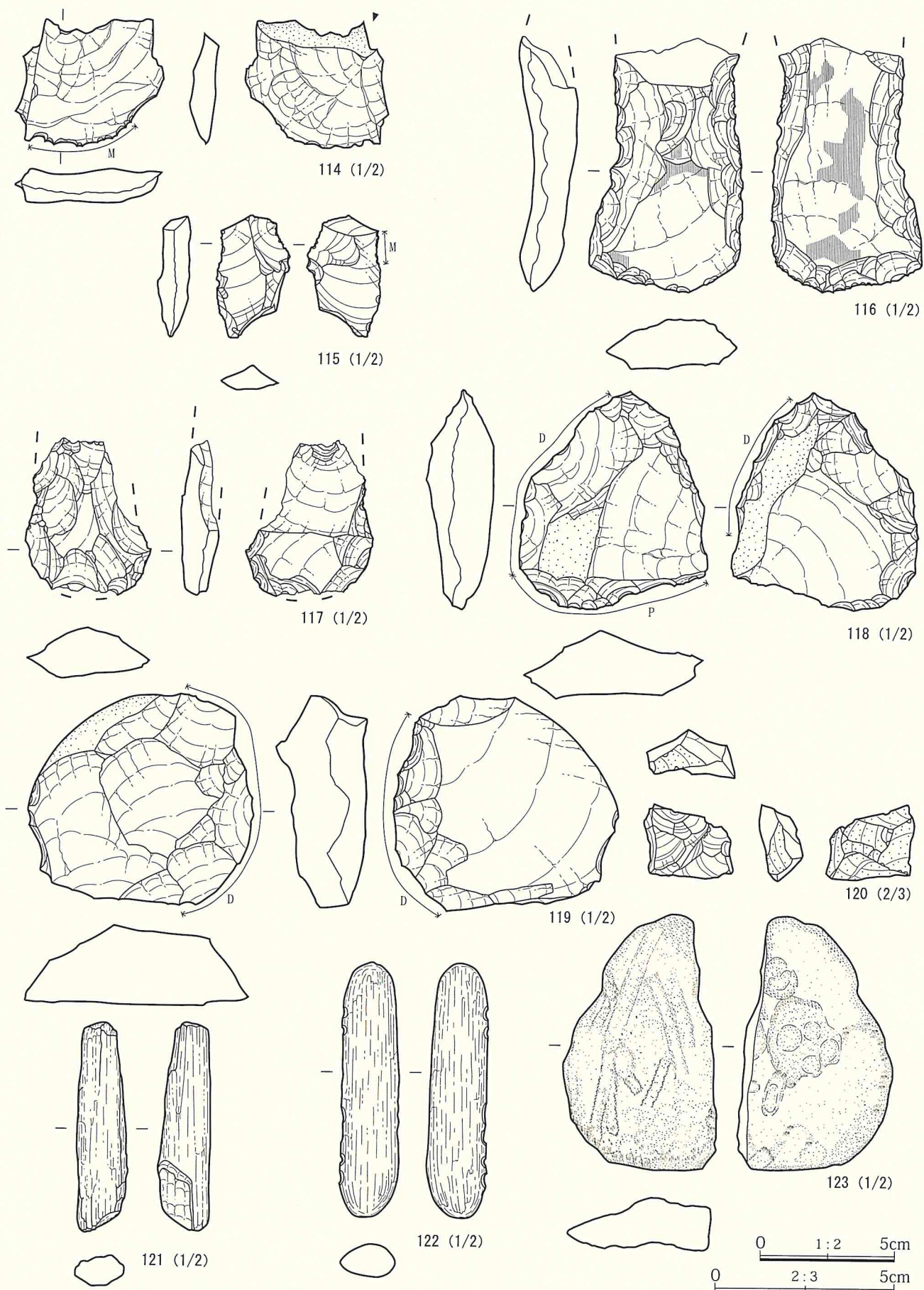
第14図 出土遺物図(4)



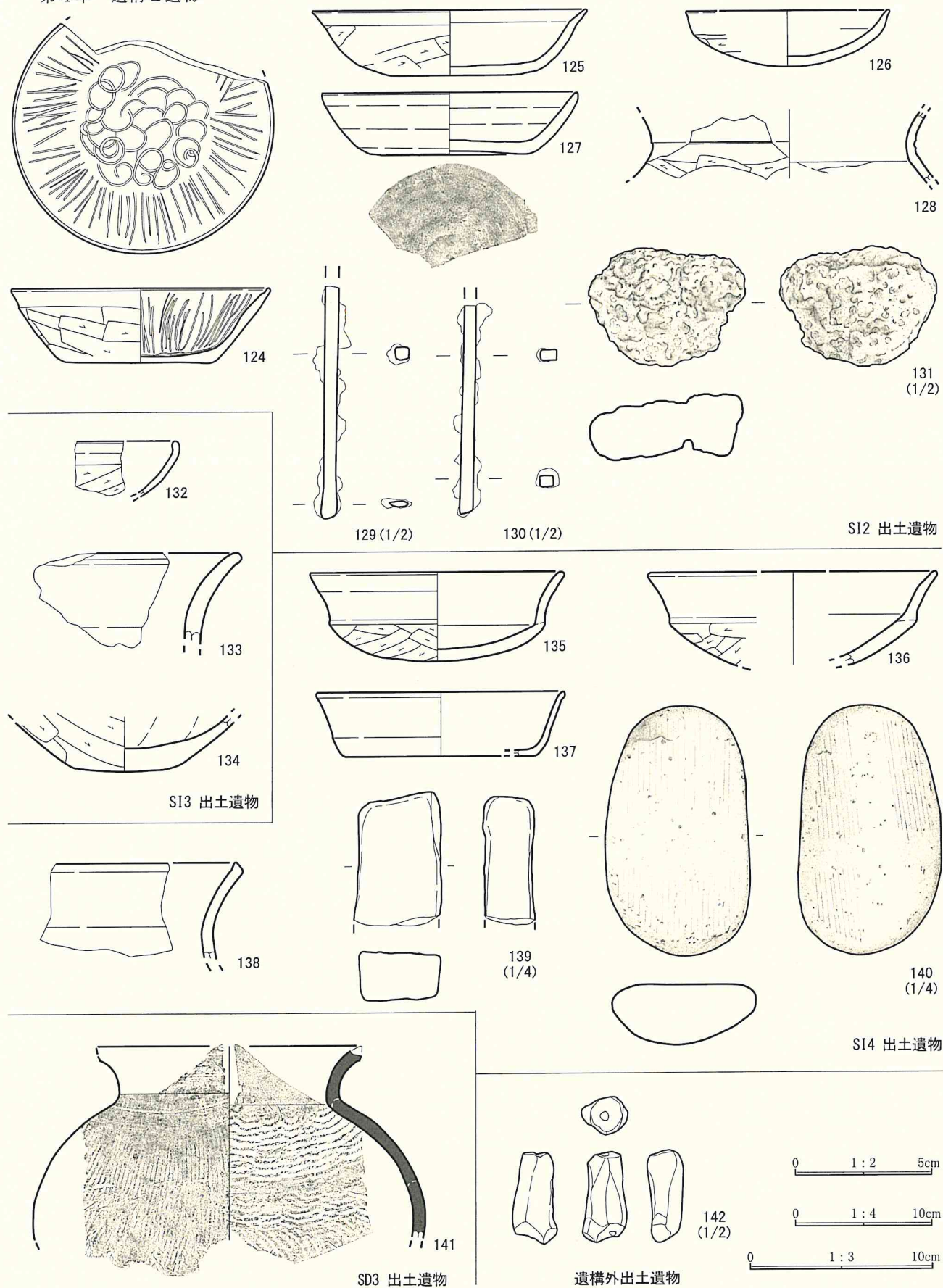
第15図 出土遺物図 (5)



第16図 出土遺物図(6)



第17図 出土遺物図 (7)



第18図 出土遺物図(8)

第5章 ま と め

第1節 調査の成果

この調査は東西約200mの広範囲であるものの、道路拡幅部分という制約から個々の遺構を完掘出来ず、史的意義を言及するに十分な資料を得ることはできなかった。

検出した住居跡は、縄文時代1軒、古墳時代2軒、奈良時代1軒、その他土坑、柱穴である。縄文時代の住居跡SI 1は、前期前半関山Ⅱ式に神ノ木式を伴う段階で、吉井地域では多比良天神原遺跡の有尾式期の集落に先行するものである。古墳時代の住居跡SI 3・4は、それぞれ7世紀後半および6世紀前半に該当するもので、遺跡のあり方としては周辺の入野遺跡、多比良追部野遺跡などと同様、古墳時代後期を亘る継続期間の長い安定した集落形成の様相がうかがえる。古代の住居跡SI 2は、暗文土器を伴い8世紀前半に該当する。その他には旧地形の谷津にあたる低い窪地で、時期不明の陥し穴SK 7を検出した。丘陵上から水場へ下りてくる動物を捕獲するための土坑と考えられる。

第2節 SI 1 出土土器について

SI 1では前期前半の土器・石器がまとめて出土した。土器の総重量は26.5kgを量る。以下土器について形態、施文について特徴をまとめておく。

形態 全体形状を把握できる個体は少ないが、口縁部が外反し頸部がくびれる形状(1・2・18など)、口縁部から胴位までほぼ直線的となる形状(21・24など)、波状口縁部がやや内湾し頸部が緩やかにくびれる形状(15～17)がある。底部は82・83のような上げ底タイプがほとんどで、平底は不掲載遺物も含め78の1点のみである。口縁形状は1～14・20～23などの平口縁と、15～19・31・32のような波状口縁を呈するものがほぼ同じような割合で含まれる。33～36は口縁部を装飾する集合角状突起である。平口縁あるいは波状と波状の間に付くもの(33・35)、波状口縁の頂部に付くもの(34)などが含まれる。注口付深鉢は37があるが、剥離した形状から30・59の2点も注口付になると考えられる。

施文 関山Ⅱ式の特徴となる半截竹管による平行沈線、あるいは縄文原体によって鋸歯状の菱形文を施文する。20は直前段合摺り(正反の合)を施した縄文地に、口縁部文様帯を半截竹管による沈線で菱形文を構成する。21～23(同一個体)は口縁部文様帯を直前段合摺り(正反の合)によって、菱形のモチーフを構成する。24は無文地に隆帯による菱形モチーフを構成し、その周囲を半截竹管による沈線と刺突文で装飾する特異な資料である。菱形の中心線にも隆帯を垂下させ貼付する点は、20の菱形モチーフの中心沈線と類似する。33・34・36・42～48などは、半截竹管による平行沈線を施した後に連続爪形文を刺突する資料で、小破片であるが一定量の共伴が認められる。41は円環状の隆帯で上部が欠損しているが、波状口縁の頂部から垂下する装飾と考えられる。また他地域の影響を有する資料として、25・26・40は神ノ木式の特徴を有する。口縁部は有段形状で緩やかな波状口縁を呈し、櫛歯状工具による連続刺突文を施す。口縁部文様帯には櫛歯状工具による菱形文を施し、菱形の交点に円形の渦巻き文を施す特徴が見られる。含有する繊維は、他の土器より少なく観察される。87は中越式の特徴を有する土器である。胎土に繊維を含まず、内面に指頭圧痕が多く見られ薄手に整形されている¹⁾。また関山Ⅱ式に盛行する組紐施文については69のみで、本遺跡では非常に少ないことが特筆される。

第3節 SI 1 出土石器について

石器各説

石鏃(第15図89～93) 5点出土し、そのうち2点は未成品である(91・92)。成品の形態は凹基無茎鏃である。石材は黒曜石2点、チャート1点、頁岩2点である。

第5章 まとめ

石匙(第15図94・95) 2点出土した。形態は、94は縦形石匙、95は横形石匙である。石材はチャートである。調整技法は押圧剥離による整形で、縁辺微細剥離が見られる。

スクレイパー(第15～17図96～114) 19点出土した。形態は、素材となる剥片が多様であるため不定形な形である。使用石材は、黒曜石2点、チャート4点、黒色頁岩2点、頁岩11点である。調整技法は、押圧剥離によるものは、両面押圧剥離(96・97)と片面押圧剥離(98)がみられる。直接打撃+押圧剥離を併用するものは1点である(99)。直接打撃を技法とするものは8点あり、両面直接打撃(100～106)と片面直接打撃(107)が見られる。縁辺微細剥離を施すものは8点ある(108～114)。

リタッチド・フレイク(第17図115) スクレイパー108～114に近いが、剥片の縁辺1/2以下に微細な剥離が観察されるものである(115)。使用石材はチャートである。

打製石斧(第117図116～118) 3点出土した。形態は、いずれも片刃で断面かまぼこ形を呈す。石材は頁岩2点、黒色頁岩1点である。調整技法は、水平に回転させながら直接打撃による調整を行う「水平回転技法」である。刃部に摩耗痕は観察されない。

礫器(第117図119) 1点出土した。使用石材は頁岩で、交互剥離による直接打撃調整を施す。

石核(第117図120) 1点出土した。石材は黒曜石である。2.5cmの小形で、形態はサイコロ状を呈し、頻繁に打面を移している。裏面には原礫面がかなり残り、剥片を得るだけの素材の残りは少ない。

敲石(第117図121・122) 2点出土した。形態はいずれも棒状で、石材は結晶片岩である。121は端部に敲打による剥離痕が、122は側縁部に敲打痕が認められる。

砥石(第117図123) 図化したものは1点である。123は有溝砥石で、石材は牛伏砂岩である。他にも搬入礫として牛伏砂岩が21点(844.98g)出土しているが、粗砥用の砥石として利用する目的で搬入されたと思われる。搬入礫の中に滑石が出土している点から、装身具類の研磨用に使用された可能性がある。

第4表 SI 1 出土石器組成表

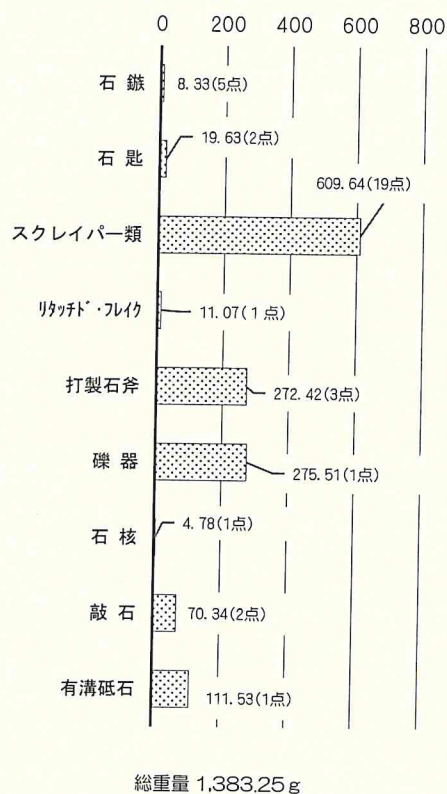
種別 \ 石材	黒曜石	チャート	黒色頁岩	安山岩色	頁岩	凝輝灰岩緑	安山岩類	砂岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類	閃緑岩	蛇紋岩	滑石	石英	合計
石 鏃	2	1			2											5
石 錐																0
石 匙		2														2
スクレイパー類	2	4	2		11											19
リタッチド・フレイク		1														1
打製石斧			1		2											3
礫器					1											1
石 核	1				3											4
原 石																0
剥 片	34	11	29	3	147											229
敲 石										2						2
有溝砥石									1							1
搬入礫						5	30	27	21	26	21	1		1	1	128
合 計	39	19	32	3	166	5	30	27	22	28	21	1	0	1	1	365

石器組成

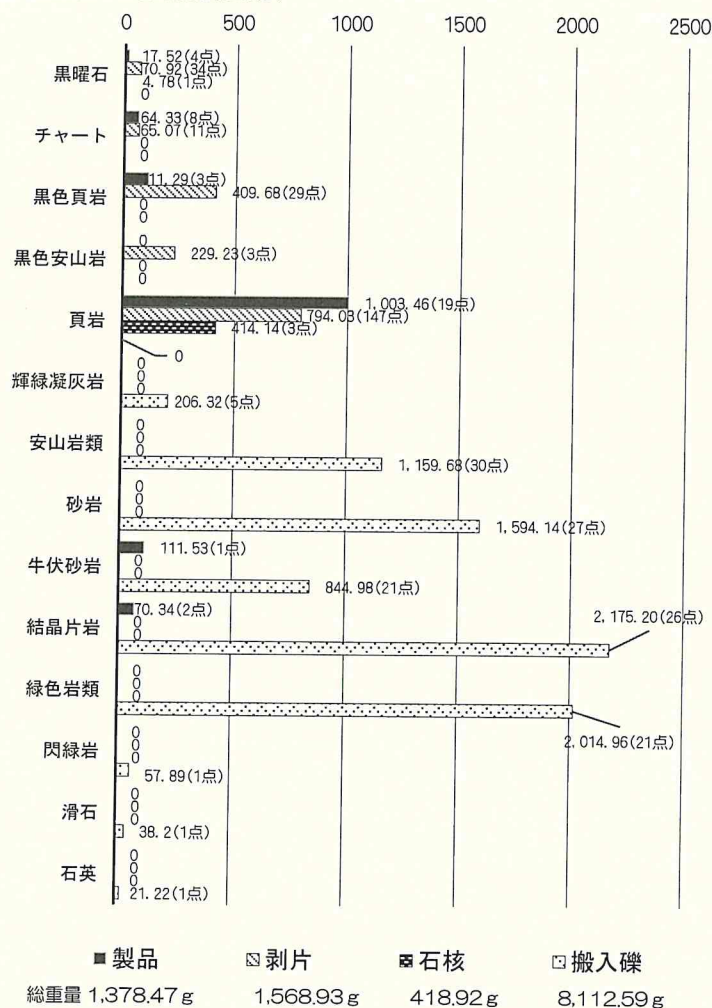
第4表で示したとおり、器種組成ではスクレイパーが19点で最も多い。個数組成では、19点の製品(1,003.46 g)のほか147点の剥片(794.03 g)及び3点の石核(414.14 g)が出土した頁岩が群を抜いて多い。器種組成でもスクレイパー類が多いことから、頁岩製のスクレイパーを主とした石器製作を活発に行っていた住居であることがわかる。

黒曜石・チャートは、製品数はそれぞれ4点(17.52 g)・8点(64.33 g)に比して、剥片数はそれぞれ34点(70.92 g)・11点(65.07 g)と少なく軽量である。重量組成では、搬入礫に該当する結晶片岩が2,175.20 g (26点)と最大で、続いて緑色岩類が2,014.96 g (21点)と重い。その他の石材としては、滑石が1点出土しており、装飾品の加工が考えられる。石英は、本遺跡地で主要な石材であるものの出土は1点のみである。搬入礫として計上しているが、自然礫の可能性もある。なお多種類の石材の多くは、三波川変成帯に源流をもつ雄川、天引川、大沢川などが合流する鍋川の転石より採取が可能である。ただし鍋川上・中流域に分布する黒色安山岩、利根川流域に分布する黒色頁岩などは遠路より入手した石材と考えられる。

第5表 器種別重量組成表



第6表 石材別重量組成表



(註)

1) 近年県内でも散見される中越式土器と近似する資料(87)について、胎土・施文・内面整形の状況が他の関山Ⅱ式土器と大きく異なる点を谷藤保彦氏、伊藤順一氏より貴重ご教示を賜った。なお中越式土器の底部は本来尖底になるが、本資料は平底の形状になる点について、谷藤氏より関山Ⅱ式の上げ底形状を取り入れ在地化した土器であるとの見解を頂いた。

(参考文献)

茂木由行『多比良天神原遺跡発掘調査報告書』2000 吉井町教育委員会
 谷藤保彦『神保植松遺跡』1997 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 大工原豊『大下原・吉田原遺跡』1993 安中市教育委員会

大工原豊『中野谷松原遺跡』1998 安中市教育委員会
 『第10回縄文セミナー前期中葉の諸様相』1997 縄文セミナーの会

第5章 まとめ

第7表 出土遺物観察表

SI 1 (土器)

番号	器 種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
1	縄文 深鉢	口径：短径36.5 長径39.5 器高：(28.5)	①酸化 ②褐色～茶褐色 ③石英、チャート、白色粒、繊維含む ④口縁～胴下部 3/4	外面 縄文 R L。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	床面直上 SI01-9.14.42
2	縄文 深鉢	口径：(29.2) 底径：— 器高：(12.4)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、頁岩、チャート、片岩、黒色粒 繊維含む ④口縁～頸部 1/2	外面 縄文 R L。口縁下に2本の原体(0段が4条の r に よる無節の縄文 L)の閉端を5段重ねる。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	床上15cm SI01-209.211 SK10-8.9
3	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.1)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L (0段多条)。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SI01-36.90
4	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.6)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、チャート、白色粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SI01-14
5	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L。 内面 横方向磨き。	SI01-142
6	縄文 深鉢	口径：(14.0) 底径：— 器高：(6.3)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、黒色粒、繊維含む ④口縁部 1/6	外面 縄文 R L (0段多条)。 内面 横方向磨き。 口縁直下に円形の補修孔。	SI01-pit6
7	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.5)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L (0段多条)。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SI01-255.315
8	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.4)	①酸化 ②褐色 ③石英、雲母、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L (0段多条)。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SK10-3
9	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.7)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、黒色粒、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L (0段多条)。原体の下端を紐で縛るか。 内面 横方向磨き。	SI01-149
10	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 無節の縄文 L。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SI01一括
11	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L の2種類の原体の閉端を重ねて施文。1 つは口縁に平行、1つは斜め方向。 内面 横方向磨き。	SI01-10
12	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.8)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、雲母、褐色礫、砂粒、石英、繊維含む ④口縁部	外面 無節の縄文 L。 内面 刷毛目状の条痕。	SI01-33.46
13	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.3)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、雲母、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L。 内面 横方向磨き。 口縁直下に円形の補修孔。	SI01-50
14	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.1)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、チャート、片岩、雲母、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 L R (0段多条)。 内面 横方向磨き。	SI01-B区
15	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、砂粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 L R。 内面 横方向磨き。	SI01-261
16	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(9.3)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、黒色粒、雲母、繊維含む ④口縁部	外面 口縁に山形の突起・縄文 R L (0段3条)。 内面 口唇部に刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	床上13cm SI01-15
17	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.8)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、黒色粒、繊維含む ④口縁部	外面 口縁に山形の突起・縄文 R L (0段3条)。 内面 口唇部に刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	SI01-231
18	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.3)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、安山岩、チャート、雲母、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SI01一括
19	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、黒色粒、白色粒、繊維含む ④口縁部	外面 縄文 R L。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。 口縁直下に円形の補修孔。	SI01-39
20	縄文 深鉢	口径：(19.0) 底径：— 器高：(28.9)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、チャート、長石、片岩、黒色粒、赤褐色粒、 繊維含む ④口縁～胴下半部 1/4	外面 直前段合攪り。無節の縄文 L に紐 1 を2本逆回転 に巻きつける。半截竹管状施文具による平行沈線によっ て菱形のモチーフと上下の区画線を描く。口唇部にヘ ラ状の施文具による刻み目。 内面 横方向磨き。	床上13cm SI01-275
21	縄文 深鉢	口径：(25.0) 底径：— 器高：(18.0)	①酸化 ②暗褐色～黒褐色 ③石英、泥岩、片岩、繊維含む(やや少ない) ④上半位	外面 直前段合攪り。縄 R L に縄 L を逆回転に巻きつ ける原体によって菱形のモチーフを構成する。 内面 縦方向の強い磨き。	床上17cm SI01-A区.B区 SI01-2.5.6
22	縄文 深鉢	口径：(25.0) 底径：— 器高：(12.4)	①酸化 ②暗褐色～黒褐色 ③石英、泥岩、片岩、繊維含む(やや少ない) ④口縁部	21と同一個体	床上15cm SI01-A区 SI01-6
23	縄文 深鉢	口径：(25.0) 底径：— 器高：(10.3)	①酸化 ②暗褐色～黒褐色 ③石英、泥岩、片岩、繊維含む(やや少ない) ④口縁部	21と同一個体	床上15cm SI01-A区 SI01-5

番号	器 種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
24	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(14.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、赤褐色粒 繊維含む(やや少ない) ④口縁破片	外面 指でつまんだような断面三角の隆帯によって、No20のような変形のモチーフを構成。これに沿って半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線、地の部分に同一施文具による刺突、口縁直下には同じ施文具による短い平行沈線を施す。口縁には隆帯による突起を貼付し刻み目を施す。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	床上12cm SI01-261
25	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(9.5)	①酸化 ②暗褐色 ③白色粒、黒色粒、繊維含む ④口縁部	外面 有段口縁の上に原体5本歯の刺突文・胴部に6本歯の原体による平行条線、渦巻き文、連続刺突文によって変形のモチーフを構成する。 内面 刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。 神ノ木式。	床上8cm SI01-14.19
26	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.8)	①酸化 ②灰黄褐色 ③白色粒、黒色粒、繊維含む ④口縁部	No25と同一個体 神ノ木式。	床上10cm SK10ベルト南 SI01-24
27	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.5)	①酸化 ②橙褐色 ③石英、チャート、繊維含む ④口縁部	外面 縄文LR(0段3条)。半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線。 内面 横方向磨き。	SI01-254
28	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.5)	①酸化 ②褐色 ③石英、雲母、砂粒、繊維含む ④口縁破片	外面 直前段合摺り。無節の縄文Lに紐rを2本逆回転に巻きつける。 内面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。	SK10-1
29	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①酸化 ②暗橙褐色 ③石英、雲母、片岩、繊維含む ④口縁部	外面 腹を下にした半截竹管状施文具による平行沈線(半肉彫り状)、縄文RL、LRを施文。 内面 刷毛目状の条痕に磨き。	SI01-277
30	縄文 深鉢 注口付か	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	①酸化 ②橙褐色 ③石英、片岩、黒色粒、繊維含む ④口縁部	外面 半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線、地の縄文はRL。 内面 軽い磨き。 破片下端は注口の穴の端部分か。	SI01-138
31	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、白色粒、長石、繊維含む ④口縁部	外面 腹を下にした半截竹管状施文具による平行沈線(半肉彫り状)、縄文RL、LRを施文。 内面 指押さえ。	A区一括 SI01-A区
32	縄文 注口	口径：— 底径：— 器高：(3.3)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、繊維含む ④口縁部	外面 撫での地文に半截竹管状施文具による平行沈線(同一施文具)。 内外面 撫で。	焼土中一括 SI01焼土
33	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.4)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、長石、石英、雲母、繊維含む ④口縁部	外面 口唇部に円周方向からつまんだような小突起。半截竹管状施文具の腹を下にした押し引きによる爪型文と平行沈線(両方とも半肉彫り状で同一施文具)、縄文LRを施文。 内面 口唇部に刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	SI01-307
34	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.5)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、白色粒、繊維含む ④口縁部	外面 口唇縁に突起を連ね、突起から隆帯を垂下させる。半截竹管状施文具の腹を下にした平行沈線と押し引きによる爪型文。 内面 磨き。	SI01-A区掘り方
35	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、黒色粒、繊維含む ④口縁部	外面 口唇が厚くなり、円周方向に指でつまんだような突起がある。縄文RLを施文。 内面 指による撫で。	SI01-135
36	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.1)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、繊維含む ④口縁部	外面 口縁に円周方向からつまんだような小突起。半截竹管状施文具の腹を下にした押し引きによる爪型文(半肉彫り状)。 内面 磨き。	B区一括 SI01-B区
37	縄文 注口付深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、白色粒、黒色粒 繊維含む(やや少ない) ④口縁部破片	外面 縄文RL。口縁下に半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線。注口部は指押さえ。 内面 磨き。 注口部は半円筒状。	SI01-258
38	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.6)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、黒色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線。 内面 磨き。	SI01-38
39	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	①酸化 ②暗橙褐色 ③片岩、黒色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線。 内面 磨き。	SI01-309
40	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.2)	①酸化 ②赤褐色 ③片岩、石英、雲母、繊維含む ④胴部破片	No25・26と同一個体 内面 刷毛目状の条痕に磨き。 神ノ木式。	SI01-304
41	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、繊維含む ④胴部破片	外面 隆帯による環状モチーフ。 内面 刷毛目状の条痕の上に磨き。	SI01-B区
42	縄文 深鉢 注口付か	口径：— 底径：— 器高：(3.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、赤色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文(両方とも半肉彫り状)。 内面 磨き。 No43と同一個体か。	SI01-B区
43	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.2)	①酸化 ②暗黄褐色 ③石英、雲母、繊維含む ④胴上部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文(両方とも半肉彫り状)。 内面 磨き。 No42と同一個体か。	SI01一括
44	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.1)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、白色粒、繊維含む ④胴上部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文(両方とも半肉彫り状)。 内面 磨き。	SI01焼土

第5章 まとめ

番号	器 種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
45	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.0)	①酸化 ②暗褐色 ③白色粒、石英、繊維含む ④胴上部破片	外面 腹を下にした半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文(両方とも半肉彫り状)。 内面 磨き。	SI01-297
46	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.5)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、繊維含む ④胴上部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文。 内面 磨き。	SI01-B区
47	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.3)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、繊維含む ④胴上部破片	外面 腹を下にした半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文(両方とも半肉彫り状)。 内面 磨き。	SI01一括
48	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.7)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、白色粒、繊維含む ④胴上部破片	外面 腹を下にした半截竹管状施文具による平行沈線と押し引きによる爪型文(両方とも半肉彫り状)。 内面 磨き。	SI01-B区
49	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.7)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、黒色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線、地の縄文はL Rか。 内面 磨き。	SK10ベルト南
50	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.5)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、赤褐色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文L R。半截竹管状施文具による半肉彫り状の平行沈線。 内面 荒い磨き。	SI01-B区
51	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.6)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、黒色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による半肉彫り状平行沈線。 内面 磨き。	SI01-A区
52	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.3)	①酸化 ②橙褐色 ③片岩、雲母、石英、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線、無節の縄文L。 内面 磨き。	SI01-237
53	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.2)	①酸化 ②褐色 ③石英、赤褐色粒、黒色粒、繊維含む ④頸部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線、地の縄文はR L。 内面 刷毛目状の条痕に磨き。	SI01焼土 SI01-203
54	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、長石、雲母、繊維含む ④胴部破片	外面 直前段合攪り。縄R LにL2本を逆に巻きつける。 内面 荒い磨き。	SI01-B区
55	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.2)	①酸化 ②褐色 ③石英、片岩、雲母、繊維含む ④頸部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線(半肉彫り状)。 地の縄文はL Rを施文。 内面 刷毛目状の条痕に磨き。	SI01一括 SI01-253
56	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、白色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。半截竹管状施文具による半肉彫り状の平行沈線。 内面 刷毛目状の条痕の上に磨き。	SI01-1
57	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、チャート、黒色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 半截竹管状施文具による平行沈線、縄文R L。 内面 刷毛目状の条痕に磨き。	SI01-53
58	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.8)	①酸化 ②褐色 ③石英、チャート、雲母、白色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。 内面 刷毛目状の条痕の上に磨き。	SI01-134
59	縄文 注口付深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、頁岩、繊維含む ④胴部破片	外面 直前段合攪り。縄文L Rに攪りと逆に縄Lを2本合わせる。上に注口状の突起の端があり、縄文を撫でて消している。 内面 磨き。	SI01-268
60	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(12.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、赤色粒、雲母、繊維含む ④胴部破片	外面 無節の縄文Lとループ文。下半に無節の縄文Lに攪りと逆に紐rを2本合わせた直前段合攪り。 内面 荒い磨き。	SK10-6.10
61	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(9.0)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、白色粒、赤褐色粒、雲母、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。 内面 指押さえ、荒い磨き。	SI01一括
62	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(7.8)	①酸化 ②褐色 ③長石、雲母、石英、繊維含む ④頸部～胴上部	外面 縄文R L、縄文L R(0条3段)。 内面 刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	SK10-13
63	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(9.5)	①酸化 ②灰黄褐色 ③石英、白色粒、片岩、黒色粒、繊維含む ④胴部	外面 縄文R Lか。 内面 縦方向に荒い磨き。	SI01-pit6
64	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(10.8)	①酸化 ②黒褐色 ③石英、安山岩、黒色粒、繊維含む ④胴部	外面 2種類の縄文L R。 内面 縦方向に荒い磨き。	SK10-15
65	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(9.1)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、雲母、繊維含む ④頸部～胴上部	外面 縄文L R。 内面 荒い磨き。 スス付着。	SI01-285
66	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(13.8)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、長石、黒色粒、白色粒、繊維含む ④胴部	外面 無節の縄文L。 内面 磨き。	SI01-33.40.41 42
67	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(12.1)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、雲母、チャート、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。原体の閉端を重ねて文様を形成している。 内面 刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	SI01-25
68	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(10.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、チャート、長石、赤色粒、白色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。 内面 刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	SI01-206.208
69	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(2.4)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、赤褐色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 組紐。 内面 磨き。	SI01-A区一括

番号	器 種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
70	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(6.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、黒色粒、片岩、雲母、繊維含む ④胴部破片	外面 直前段含攪り。縄文R L、縄文L Rに攪りと逆 にLを巻きつける。 内面 縦方向に荒い磨き。	SI01-37
71	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.8)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、片岩、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。 内面 刷毛目状の条痕の上に荒い磨き。	SI01-B区 SI01-31
72	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、雲母、白色粒、長石、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文L R(0段3条)。R L(0段3条)。 内面 刷毛目状の条痕の上に磨き。	SI01-14
73	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、白色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R Lか。 内面 磨き。	SI01-pit6
74	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.3)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、雲母、黒色粒、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文R L。 内面 磨き。	SI01-A区
75	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(5.3)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、黒色粒、繊維含む ④胴下半破片	外面 縄文R L(0段3条)。原体の環状の端も施文し ている。 内面 磨き。	SI01-128
76	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(4.4)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、チャート、雲母、繊維含む ④胴部破片	外面 縄文L R(0段3条)。 内面 刷毛目状の条痕の上に磨き。	SI01-11
77	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(9.9)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、チャート、白色粒、黒色粒、繊維含む ④胴部	外面 縄文R L。 内面 磨き。 スス付着。	SI01-B区 SI01-8.9.42.224
78	縄文 深鉢	口径：— 底径：5.0 器高：(3.3)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、繊維含む ④底部	内外面 指押さえ。 底部平底。	SI01-160
79	縄文 深鉢	口径：— 底径：9.0 器高：(4.2)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、繊維含む ④底部	外面 無節の縄文L。 底部外面 刷毛目状の条痕に荒い磨き。内面 磨き。 底部上げ底。	SI01-40
80	縄文 深鉢	口径：— 底径：7.0 器高：(1.7)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、白色粒、長石、黒色粒、繊維含む ④底部	外面 縄文R L。 底部外面・内面 磨き。 底面に黒曜石剥片を含む。底部上げ底。	SI01-153
81	縄文 深鉢	口径：— 底径：(9.2) 器高：(2.6)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、黒色粒、繊維含む ④底部	外面 縄文R L(0段多条)。 底部外面 刷毛目状の条痕に磨き。 底部上げ底。	SI01-210
82	縄文 深鉢	口径：— 底径：(7.6) 器高：(13.6)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、長石、チャート、片岩、繊維含む ④胴下部～底部	外面 縄文L R。 底部外面・内面 磨き。 底部上げ底。	SI01-133
83	縄文 深鉢	口径：— 底径：8.5 器高：(12.5)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母、繊維含む ④胴部～脚部	外面 縄文R L。 底部外面・内面 磨き。 底部上げ底。	SI01-306 pit5-3.4.5.6.7 SI01焼土
84	縄文 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(3.4)	①酸化 ②褐色 ③石英、黒色粒、砂粒、繊維含む ④底部	底部外面・内面 刷毛目状の条痕に磨き。 底部上げ底。	SI01-123.126
85	縄文 深鉢	口径：— 底径：(11.4) 器高：(4.1)	①酸化 ②褐色 ③石英、黒色粒、チャート、繊維含む ④底部	外面 縄文R Lか。 内面 撫で。 底部上げ底。	SI01-10
86	縄文 深鉢	口径：— 底径：7.3 器高：(12.6)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、白色粒、繊維含む ④胴部～底部	外面 縄文R L。 底部外面・内面 刷毛目状の条痕、磨き。	SI01-27.28.57
87	縄文 深鉢	口径：— 底径：(6.4) 器高：(14.0)	①酸化 ②赤褐色 ③雲母、石英、白色粒、片岩 ④底部 1/4	外面 縄文R L。 内面 指おさえ(指頭圧痕残る)。圧痕後撫で。 底部上げ底。	SI01-B区.269. 17.226 SK10-2
88	縄文 土製品か	口径：— 底径：— 器高：(3.2)	①酸化 ②黒褐色 ③石英、雲母、片岩、繊維含む(やや少ない) ④口縁部か	外面・外面 指おさえ(指頭圧痕残る)。圧痕後撫で。	SI1-B区一括

SI 1 (石器)

番号	器 種	石材	法量(cm)・重量(g)	技法等の分類	出土位置・注記
89	石鏃	頁岩	長さ2.3 幅1.6 厚さ0.2 重さ0.63	押圧剥離調整 凹基無茎鏃	SI01-101
90	石鏃	黒曜石	長さ2.5 幅1.4 厚さ0.4 重さ0.87	押圧剥離調整 凹基無茎鏃	SK10南ベルト
91	石鏃	黒曜石	長さ2.8 幅2.1 厚さ0.6 重さ3.49	押圧剥離調整 未成品	SI01-B区
92	石鏃	頁岩	長さ2.8 幅1.9 厚さ0.4 重さ2.86	押圧剥離調整 未成品	SI01-A区
93	石鏃	チャート	長さ1.4 幅1.2 厚さ0.3 重さ0.48	押圧剥離調整 凹基無茎鏃	SK10-20
94	石匙	チャート	長さ5.4 幅3.0 厚さ0.9 重さ14.16	交互押圧剥離調整 縦形石匙	SI01-84
95	石匙	チャート	長さ2.7 幅3.8 厚さ0.5 重さ5.47	交互押圧剥離調整 横形石匙	SI01-104
96	スクレイパー	頁岩	長さ4.9 幅4.7 厚さ1.0 重さ19.42	交互剥離による両面押圧剥離調整 裏面被熱による剥落痕あり。	SI01-259
97	スクレイパー	頁岩	長さ5.7 幅4.6 厚さ1.4 重さ30.80	交互剥離による両面押圧剥離調整 裏面被熱による剥落痕あり。	SI01-179
98	スクレイパー	頁岩	長さ6.1 幅5.9 厚さ1.2 重さ29.85	片面押圧剥離調整+両面縁辺微細剥離	SI01-219
99	スクレイパー (鉋状)	黒色頁岩	長さ10.5 幅3.5 厚さ1.5 重さ46.66	交互剥離による両面直接打撃調整+押圧剥離調整	SI01-A区掘り方
100	スクレイパー (両刃削器)	頁岩	長さ6.2 幅5.3 厚さ1.7 重さ48.36	交互剥離による両面直接打撃調整	SI01-310

第5章 まとめ

番号	器 種	石材	法量(cm)・重量(g)	技法等の分類	出土位置・注記
101	スクレイパー	頁岩	長さ4.3 幅5.5 厚さ1.5 重さ42.07	交互剥離による両面直接打撃調整	SI01-74
102	スクレイパー	頁岩	長さ5.8 幅4.7 厚さ1.0 重さ25.54	交互剥離による両面直接打撃調整	SI01-247
103	スクレイパー	チャート	長さ4.0 幅3.7 厚さ0.8 重さ12.35	両面直接打撃調整	SI01-D区
104	スクレイパー	頁岩	長さ6.2 幅4.4 厚さ1.6 重さ54.17	両面直接打撃調整	SI01焼土
105	スクレイパー	黒色頁岩	長さ5.1 幅4.1 厚さ1.1 重さ27.44	両面直接打撃調整	SI01-B区
106	スクレイパー	頁岩	長さ8.8 幅7.1 厚さ1.6 重さ119.60	直接打撃調整	SI01-317
107	スクレイパー	頁岩	長さ6.9 幅5.5 厚さ1.5 重さ59.07	片面直接打撃調整	SI01-A区
108	スクレイパー	黒曜石	長さ2.0 幅2.5 厚さ0.4 重さ2.00	片面縁辺微細剥離による調整	SI01-196
109	スクレイパー	黒曜石	長さ3.4 幅3.0 厚さ1.2 重さ11.16	片面縁辺微細剥離による調整	SI01-329
110	スクレイパー	チャート	長さ3.4 幅3.1 厚さ1.3 重さ13.66	片面直接打撃調整+縁辺微細剥離による調整	SI01-B区
111	スクレイパー	チャート	長さ2.2 幅2.4 厚さ0.6 重さ2.57	縁辺微細剥離による調整	SI01-B区
112	スクレイパー	チャート	長さ3.7 幅2.5 厚さ0.5 重さ4.57	片面縁辺微細剥離による調整	SI01-B区
113	スクレイパー	頁岩	長さ5.4 幅4.7 厚さ0.7 重さ24.83	片面縁辺微細剥離による調整	SI01-88
114	スクレイパー	頁岩	長さ4.7 幅5.0 厚さ1.4 重さ35.52	片面縁辺微細剥離による調整	SI01-B区
115	リタッチド フレイク	チャート	長さ4.3 幅2.7 厚さ1.0 重さ11.07	縁辺微細剥離による調整	SI01-B区
116	打製石斧	頁岩	長さ9.5 幅5.5 厚さ2.0 重さ111.06	水平持ち片面調整技法 断面かまぼこ形 装着時の摩耗痕あり。刃部再生しているため摩耗痕が途中で切れている。	SI01-60
117	打製石斧	黒色頁岩	長さ5.6 幅4.6 厚さ1.5 重さ37.19	水平持ち片面調整技法 断面かまぼこ形	SK10ベルト内
118	打製石斧	頁岩	長さ7.5 幅6.9 厚さ2.6 重さ124.17	水平持ち片面調整技法 断面かまぼこ形	SI01焼土
119	礫器	頁岩	長さ7.9 幅8.3 厚さ3.3 重さ275.51	交互剥離による直接打撃調整	SI01-291
120	石核	黒曜石	長さ1.9 幅2.3 厚さ1.3 重さ4.78	サイコロ状の小形 樹脂状光沢のある原礫面が多く残る。	SI01-B区
121	敲石	結晶片岩	長さ7.7 幅1.8 厚さ1.1 重さ28.99	端部に打撃による剥離痕あり。	SI01焼土
122	敲石	結晶片岩	長さ9.5 幅2.1 厚さ1.2 重さ41.35	側面に打撃による敲き痕あり。	SI01-A区掘り方
123	有溝砥石	牛伏砂岩	長さ9.4 幅5.5 厚さ2.5 重さ111.53	表面に溝状の研磨痕、裏面に凹み→研磨による摩耗痕あり。	地床炉内 SK1一括

SI 2

番号	器 種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成形・整形技法の特徴	出土位置・注記
124	暗文土器 坏	口径：14.0 底径：8.4 器高：4.1	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母 ④2/3	外面 口縁部横撫で、体部斲削り。 内面 口縁部横撫で、体部放射状暗文。 底部螺旋状暗文。	床面直上 SI02-50
125	土師器 坏	口径：14.0 底径：丸底 器高：4.3	①酸化 ②橙色 ③片岩、雲母、赤褐色粒 ④3/4	外面 口縁部横撫で、体部斲削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	SI02-B区 SI02-42.44
126	土師器 坏	口径：10.0 底径：丸底 器高：3.1	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、雲母 ④1/6	外面 口縁部横撫で、体部斲削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	SI02-B区
127	須恵器 坏	口径：(14.0) 底径：(7.4) 器高：3.4	①還元 ②暗褐色 ③片岩、石英、赤褐色粒 ④1/6	外面 轆轤整形。底部回転斲削り。 内面 轆轤整形。	SI02-30
128	土師器 甕	口・底径：一 器高：(3.3)	①酸化 ②橙色 ③片岩、石英、雲母 ④頸部破片	外面 口縁部横撫で、体部左横方向斲削り。 内面 口縁部横撫で、体部斲削り。	SI02-34
129	鉄製品	鉄鏝か	長さ(7.6cm) 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重さ10.06g		SI02-2
130	鉄製品	鉄鏝か	長さ(8.4cm) 幅0.5cm 厚さ0.5cm 重さ7.15g		SI02-49
131	鉄製品	鉄滓	長さ4.2cm 幅5.7cm 厚さ2.2cm 重さ78.05g	磁力あり。	SI02-1

SI 3

132	土師器 坏	口・底径：一 器高：(3.0)	①酸化 ②暗褐色 ③石英、片岩、雲母 ④口縁破片	外面 口縁部横撫で、体部斲削り。 内面 口縁部横撫で、体部斲削り。	SI03-A区
133	土師器 甕	口径：一 底径：一 器高：(5.0)	①酸化 ②淡褐色 ③5mm大片岩、石英、砂岩を含む、砂粒多い ④口縁破片	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	SI03-3
134	土師器 甕	口径：一 底径：(6.0) 器高：(3.0)	①酸化 ②暗褐色 ③片岩、石英、赤褐色粒、白色粒、黒色粒 ④底部破片	外面 下方向斲削り。 内面 斲削り。	SI03-7

SI 4

135	土師器 坏	口径：14.0 底径：一 器高：4.9	①酸化 ②橙色 ③片岩、2～3mm大砂礫、石英、雲母、 黒色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部～体部横撫で、底部斲削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	SI04-3
136	土師器 坏	口径：(16.0) 底径：一 器高：5.1	①酸化 ②暗褐色 ③雲母、片岩、石英、黒色粒 ④1/2	外面 口縁部～体部横撫で、底部横方向斲削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	SI04-9
137	土師器 坏	口径：(13.6) 底径：(10.6) 器高：3.5	①酸化 ②淡褐色 ③片岩、石英、白色粒 ④口縁 1/4	外面 口縁部～体部横撫で、底部斲削り。 内面 口縁部～体部横撫で。	SI04-2
138	土師器 甕	口・底径：一 器高：(5.1)	①酸化 ②橙色 ③白色粒、石英、片岩 ④口縁破片	外面 横撫で。 内面 横撫で。	SI04-18
139	石製品	砥石	長さ(9.4cm) 幅6.0cm 厚さ3.4cm 重さ281.16g	石材：牛伏砂岩	SI04-27
140	石製品	研磨台	長さ18.3cm 幅10.3cm 厚さ4.4cm 重さ1230.4g	石材：安山岩 両平坦面に研磨痕あり。	SI04-1

SD 3

141	須恵器 甕	口径：(19.0) 底径：一 器高：(13.6)	①酸化 ②暗灰色 ③石英、片岩。長石、雲母 ④口縁～胴部 1/4	外面 口縁部横撫で。体部平行叩き目。 内面 口縁部横撫で、体部円形状の当て具痕。	SD3上層
-----	----------	--------------------------------	--	---	-------

遺構外

142	土製品	不明	長さ3.2cm 幅1.6cm 厚さ1.4cm 重さ3.58g	①酸化 ②橙色 ③石英、白色粒	B区表土
-----	-----	----	--------------------------------	-----------------	------



調査区西側全景(西から)



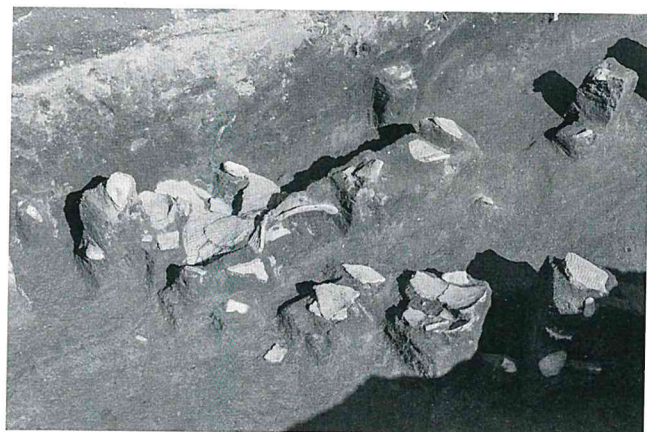
調査区東側全景(西から)



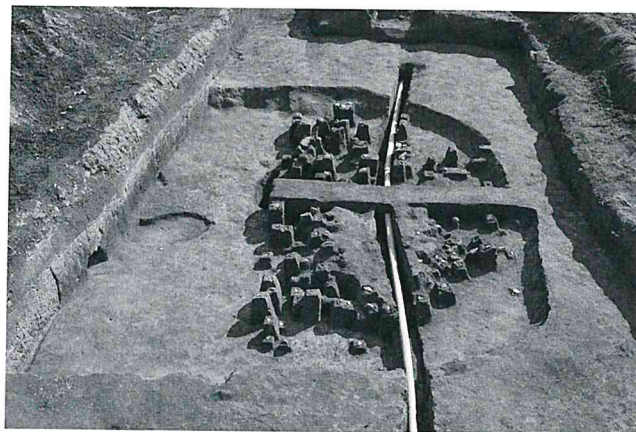
SI1遺物出土状況(東から)



SI1遺物出土状況(西から)



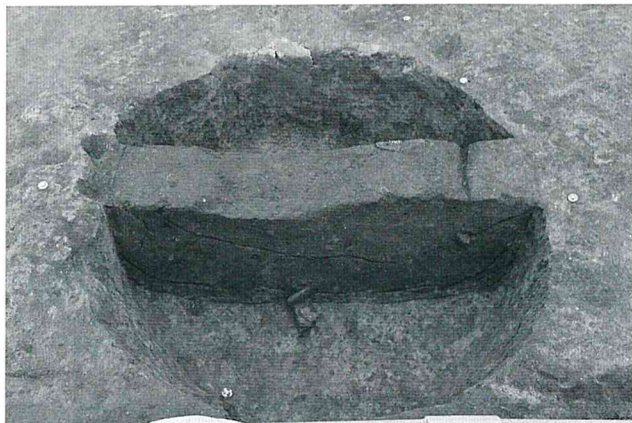
SI1遺物出土状況(南西から)



SI1拡張部 遺物出土状況(西から)



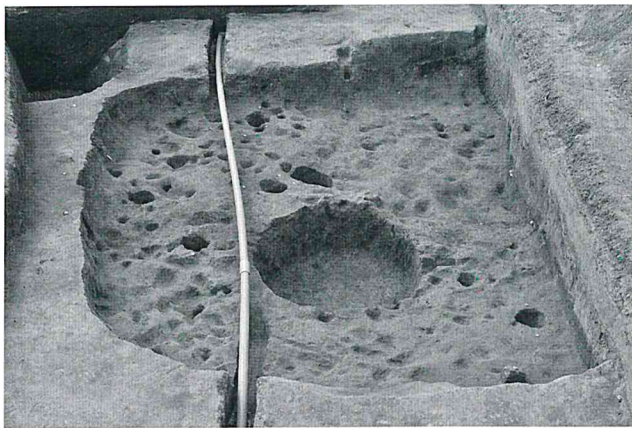
SI1拡張部 遺物出土状況(北から)



SI1内SK10土層断面(北から)



SI1・SK10完掘状況(東から)



SI1・SK101掘り方状況(東から)



SI2遺物出土状況(東から)



SI2完掘状況(東から)



SI2カマド北袖脇出土坪(北から)



SI2掘り方状況(東から)



SI3遺物出土状況(西から)



SI3完掘状況(西から)



SI3掘り方状況(西から)



SI4遺物出土状況(西から)



SI4遺物出土状況(東北から)

PL 4



SI4完掘状況(西から)



SI4掘り方状況(西から)



SD3完掘状況(東から)



SD4完掘状況(西から)



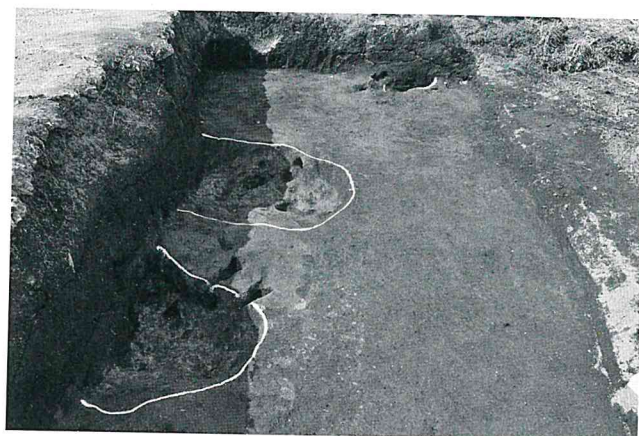
SD3土層堆積状況(北から)



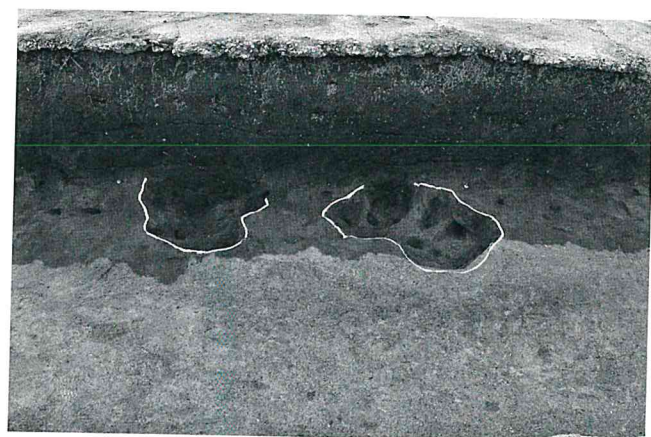
SD4土層堆積状況(北西から)



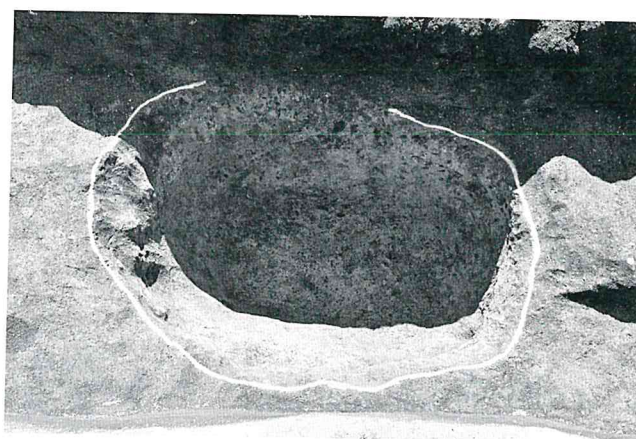
SD1 SD4 SK1完掘状況(西から)



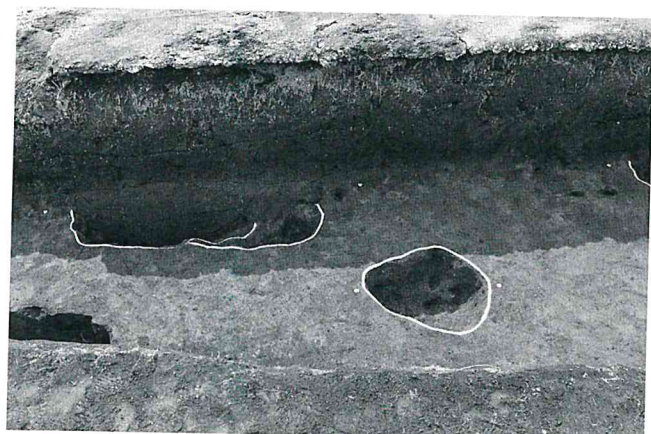
SK2・3 P5完掘状況(東から))



SK4・5完掘状況(北から)



SK7完掘状況(北から)

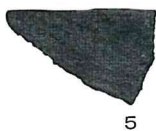
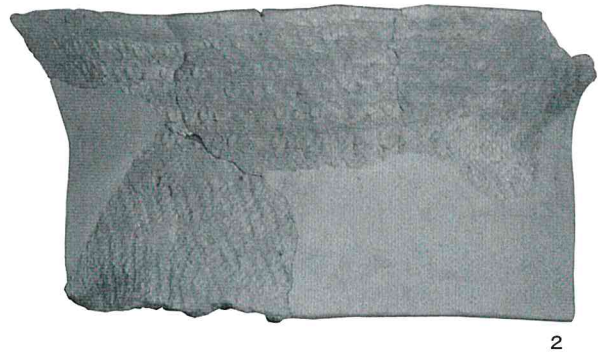


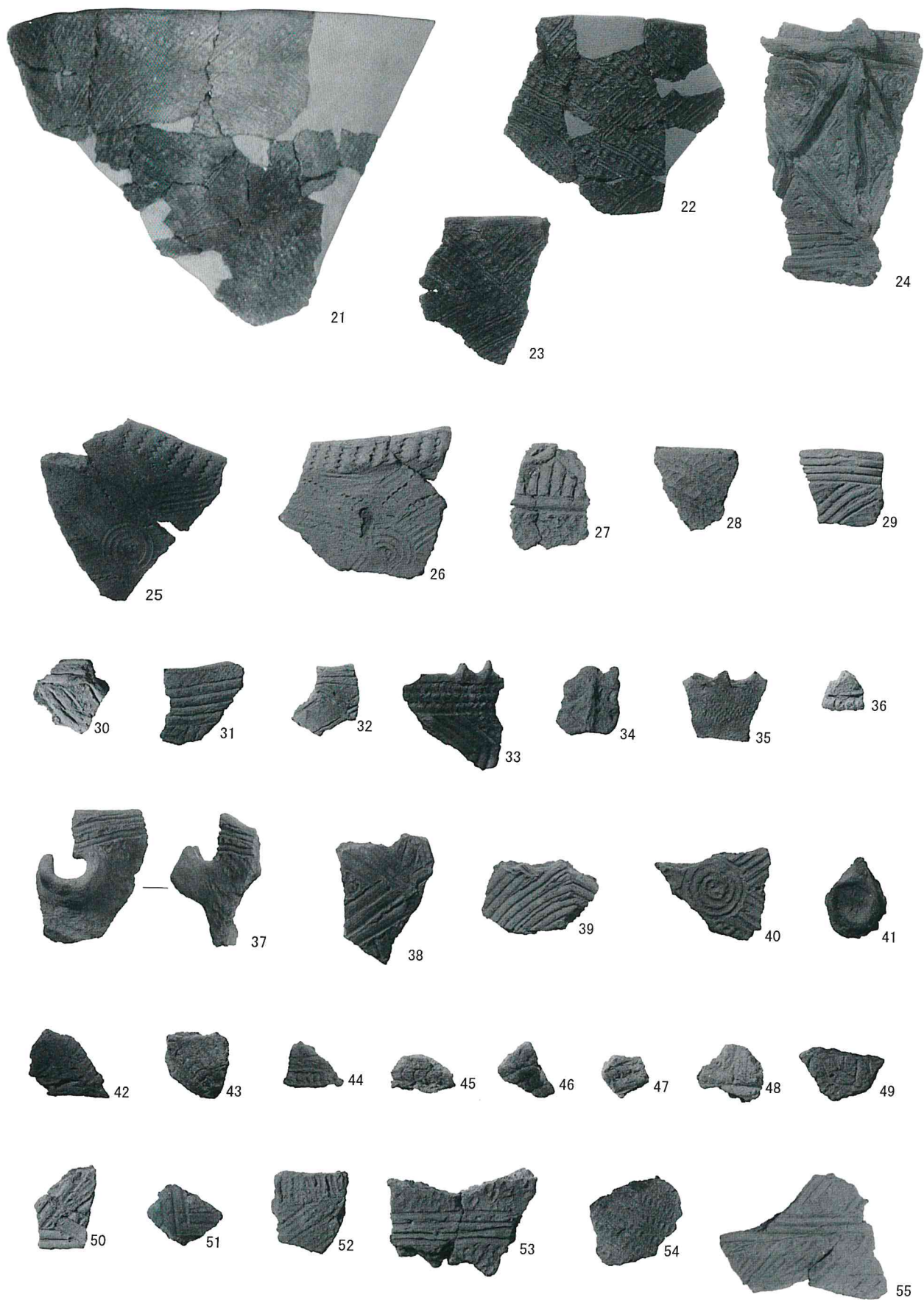
SK6・8完掘状況(北から)

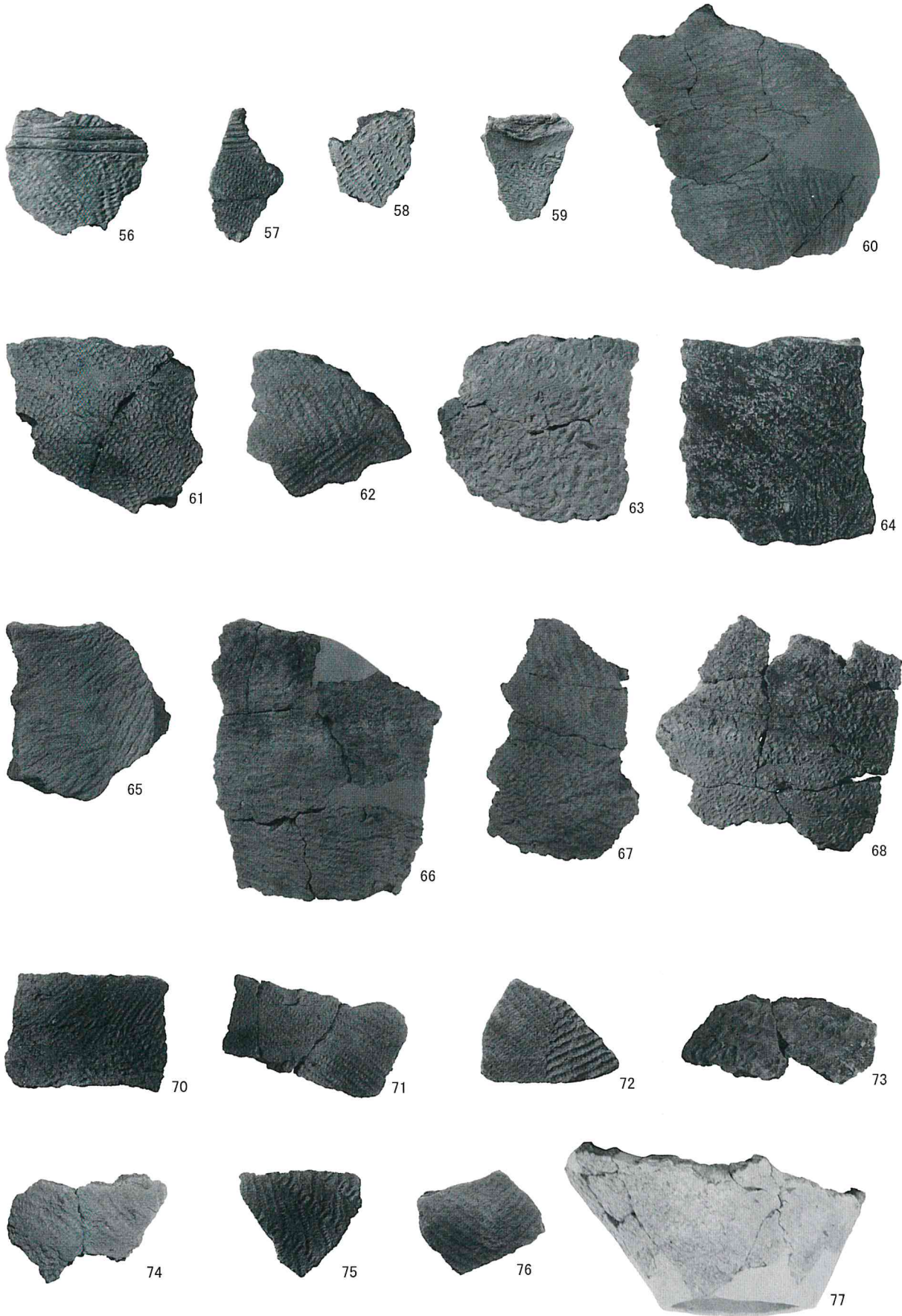


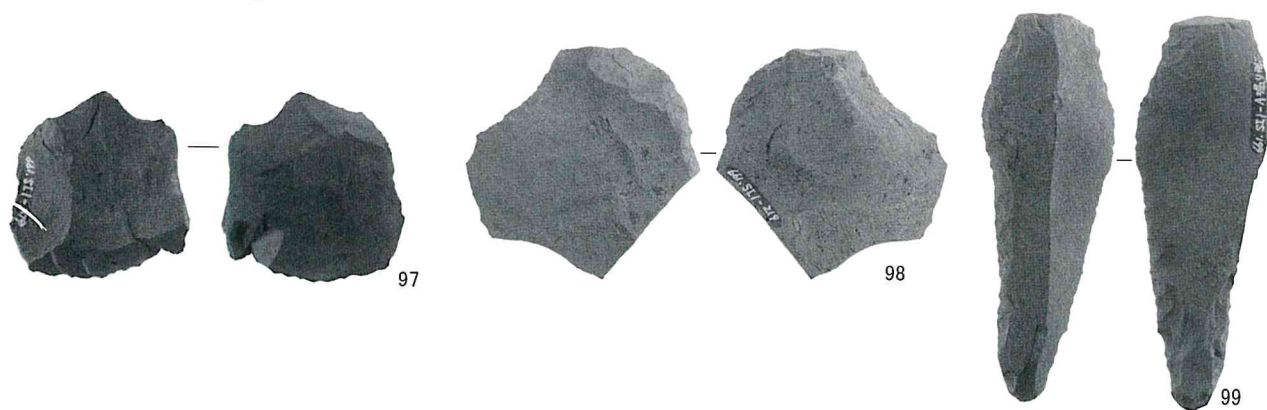
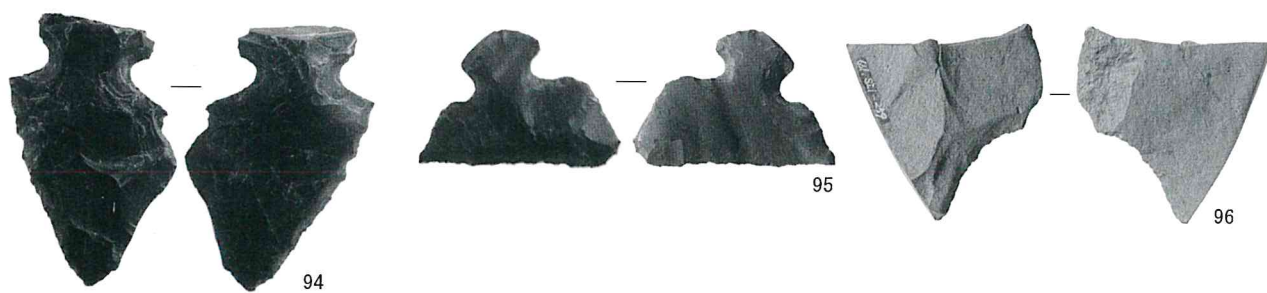
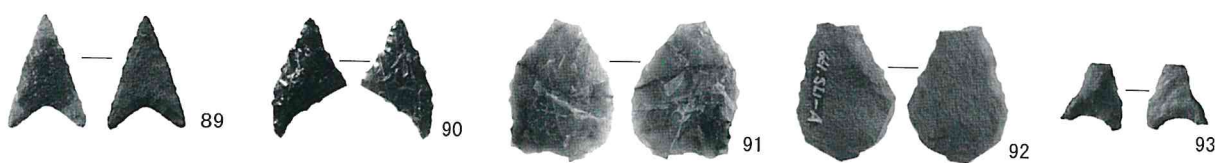
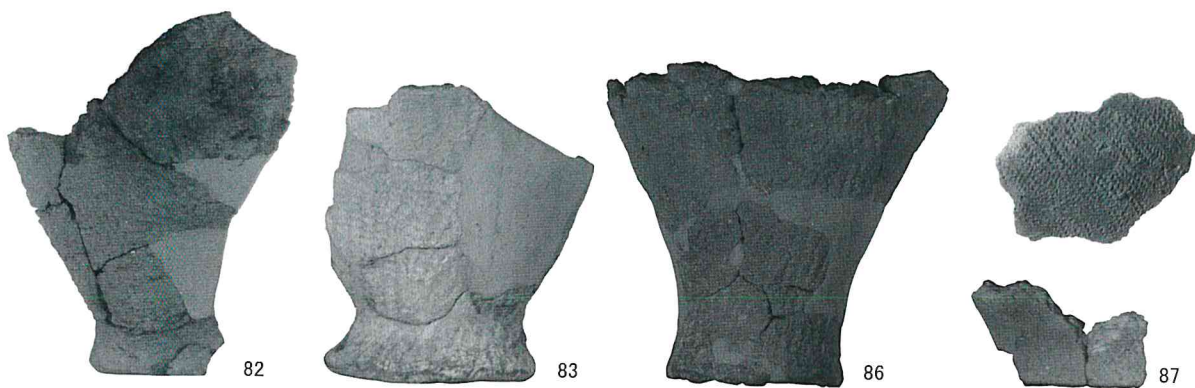
SK11完掘状況(北から)

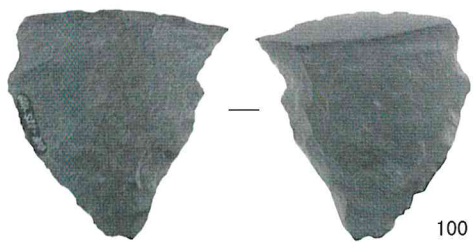
PL 6



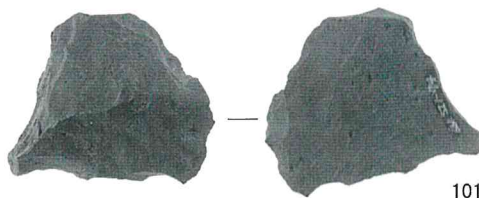




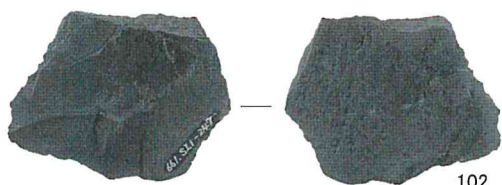




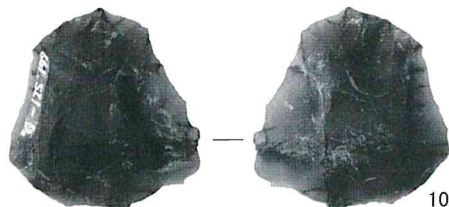
100



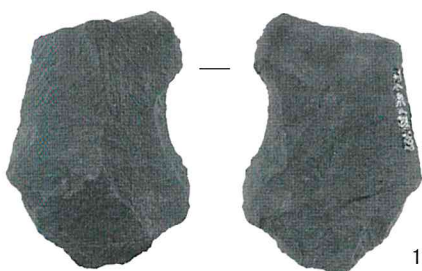
101



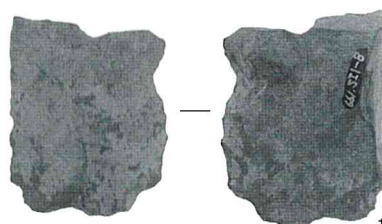
102



103



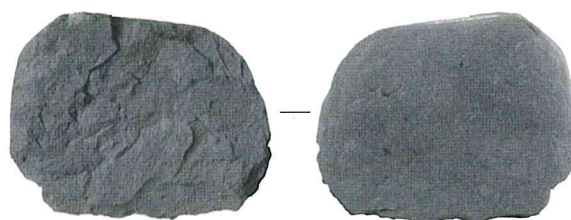
104



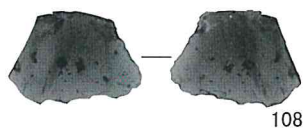
105



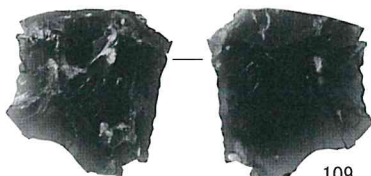
106



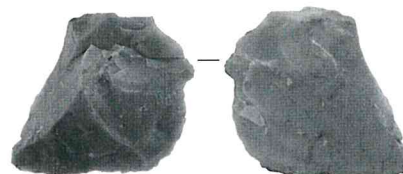
107



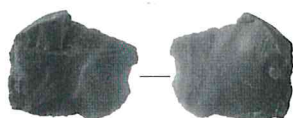
108



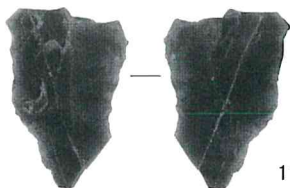
109



110



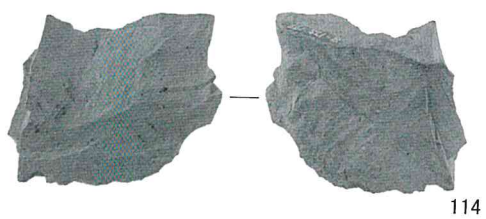
111



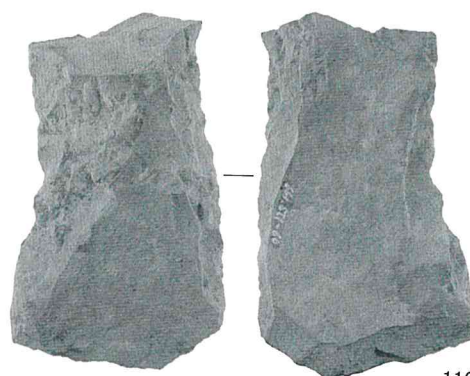
112



113



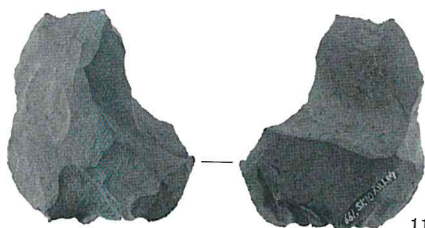
114



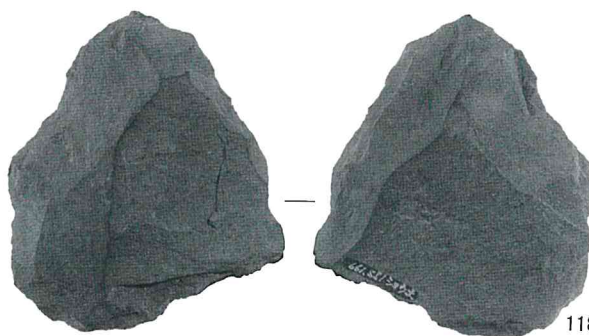
116



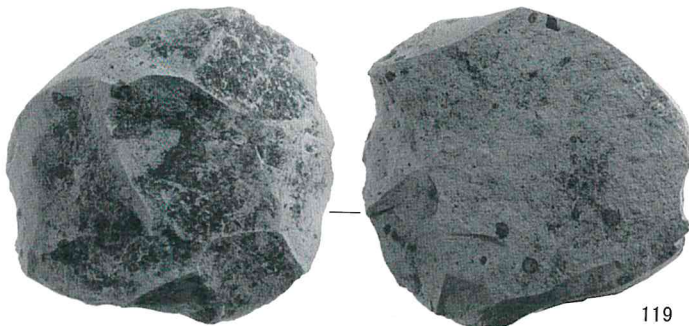
115



117



118



119



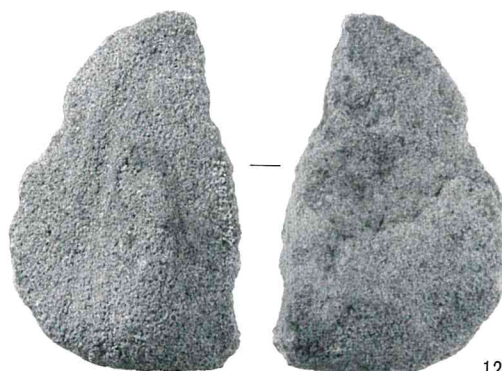
120



121



122



123

PL 12



124



125



126



127



129

130



131



128

SI02 出土遺物



132

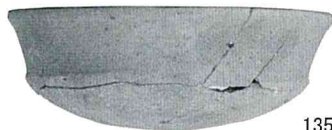


133



134

SI03 出土遺物



135



136



137



138



139



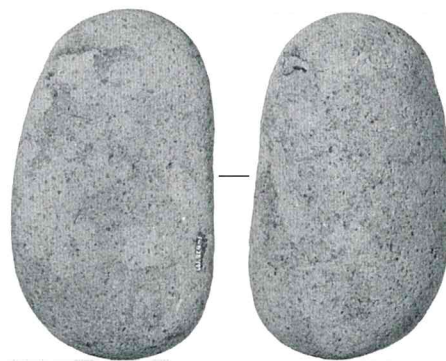
141

SD03 出土遺物



142

遺構外出土遺物



140

SI04 出土遺物

発掘調査報告書抄録

ふりがな	いしがみはらいせき
書名	石神原遺跡
副書名	石神原地区農業体質強化基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第385集
編著者名	小根澤 雪絵 茂木 由行 飯塚 光生
編集機関	高崎市教育委員会
編集機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地の1
発行年月日	平成29(2017)年3月21日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしがみはらいせき 石神原遺跡	たかきしよしいまちあざ 高崎市吉井町字 いしがみ 石神	10202	661	36° 14' 46"	139° 00' 20"	2016.2.16 } 2016.3.29	350㎡	道路拡幅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石神原遺跡	集落	縄文前期	竪穴住居跡	縄文土器、石器	関山Ⅱ式 神ノ木式・中越式
		古墳後期	竪穴住居跡	土師器・須恵器	
		奈良時代	竪穴住居跡	土師器・須恵器	暗文土器
		不明	堀跡、土坑、柱穴	土師器・須恵器	

高崎市文化財調査報告書第 385 集

石神原遺跡

—石神原地区農業体質強化基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2017 年 3 月 21 日印刷

2017 年 3 月 25 日発行

編集・発行／群馬県高崎市教育委員会
群馬県高崎市高松町35番の1
電話 027(321)1111(代表)

印 刷／杉浦印刷株式会社
